

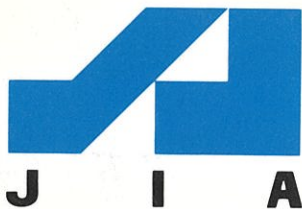
Bulletin

1998 4

125

目次

JIAの直面する諸問題とBulletinに期待するもの	服部 範二	2
戦後建築と共通の危機感	上波 亘	5
修復理念の再確認と情報公開の必要性を学ぶ	福田 省三	6
選挙広報		9
師匠譲りの55%, 15~18	井上 博	13
1枚の要望書から	松本 金彌	14
住まうためのまちづくり	渋田 一彦	16
信頼されるべきJIA会員	嶋津 民男	17
イベントセミナー情報		18
技術情報シート		
鉄骨階段の生産と現場施工		19
建築構造用ステンレス鋼材を使ったシステムトラス		23
編集後記		27



社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel:03-3408-8291 Fax:03-3408-8294

●平成3年4月16日 第三種郵便物許可
平成10年4月15日発行(毎月1回15日発行)第12巻第1号通巻125号



新支部長からの提言

JIAの直面する諸問題とBulletinに期待するもの

支部長 服 部 範 二

1. JIAの直面する諸問題

ここ数年、我が国の建築設計界を取り巻く環境は大きく変化しつつある。バブル経済の崩壊、国際化と規制緩和、阪神・淡路大震災が主な要因であるが、その中で専門職業人としての地位を確立しようとするJIAの置かれている立場は極めて厳しいということをまず強調したい。

多くの課題から私の感じている身近な問題をあげれば次の通りである。

- ①建築基準法改正に伴う民間解放などへの対応
- ②建築士法改正に伴う指定法人問題
- ③急務となった建築家資格制度
- ④建築家継続教育の必要性
- ⑤建築設計の品質保証の必要性
- ⑥財務問題と会員増強の必要性

東京以外の地域から初の支部長に就任するに当たり、上記がいずれも東京のみの問題ではなく各県レベルでも早晚直面せねばならない現実的な課題であり、地域会の動向に注目し、必要に応じて活動を支援する所存である。

2. 関東甲信越支部の会員数データ分析

下表は支部を構成する1都9県の直近データである。関係団体として日本建築士事務所協会連合会（日事連）のデータもあえて記載した。

【所見】

- ・支部は3,150人の会員、1,646の事務所で構成される。
- ・東京は2,500人、1,237事務所、支部の約80%を占める。
- ・関東甲信越支部はJIA全体に対し約50%に相当する。
- ・事務所数を日事連と比較すると、支部全体では1/4で

都道府県名	J	I	A	日事連	A/B	建築士事務所登録数
	会員数	事務所数(A)	事務所数(B)			
茨城県	42	33	575	1/17	2,843	
栃木県	23	12	242	1/20	1,768	
群馬県	30	24	281	1/12	2,243	
埼玉県	56	41	735	1/18	5,773	
千葉県	123	75	580	1/8	4,556	
東京都	2,499	1,237	1,650	1/1.3	17,416	
神奈川県	210	144	1,055	1/7	6,632	
新潟県	28	14	280	1/20	2,981	
山梨県	13	13	125	1/10	1,060	
長野県	81	53	995	1/19	3,123	
計	3,105	1,646	6,518	1/4	48,395	
全国計	6,157	3,524	20,226	1/5.7	131,994	

ある。

・栃木、新潟、長野、埼玉、茨城では1/20程度にすぎず、数の上では圧倒されている。群馬、山梨、千葉、神奈川の順である。

・東京では1/1.3で、半ば拮抗している。

・事務所登録数は48,000余り、JIAと日事連を加えても団体加入率は17%にすぎない。

単に数だけの比較では無意味である等の異論を承知で述べるのであるが、行政庁など外部から見れば数の差は歴然としている。そしてこの傾向は他支部でも共通しているのである。

少人数の地域会ではこのような状況下で、日々血の滲むような努力を傾けてJIA活動を行なっていることを忘れてはならない。

3. 建築基準法改正に関して

建設省では、本年3月中にも改正法案を閣議決定後、今通常国会に提出の予定であり、その骨子は次の通りである。

- ①建築確認・検査の民間開放
 - ②建築基準の性能規定化等建築基準体系の見直し
 - ③性能規定化に対応した新たな手順制度の整備
 - ④土地の有効利用に資する合理的な建築規制手法の導入
 - ⑤規制の実効性の確保
- 新旧のフローを下図に示す。

指定確認機関の役割が大きなものとなるが、これが今後どのような形となるか見守る必要があるうし、我々の日常業務にも多か少なかれ影響を及ぼすものと思われる。

4.建築士法改正に伴う指定法人問題

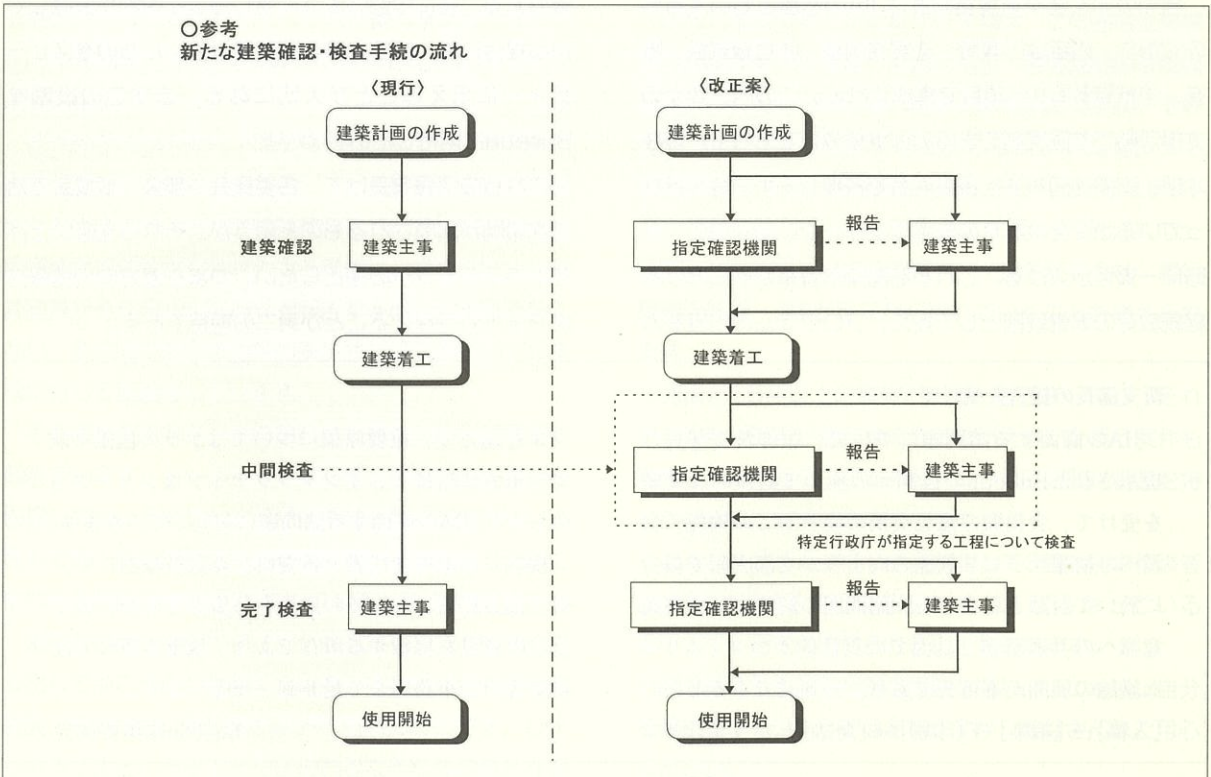
建築士法改正の施行もこの4月に予定されている。

この中で「建築士事務所の適正な運営及び設計等を委託する建築主の利益の保護を計ることを目的とする」特

定の団体（社団法人）を指定する項目が設けられている。これは元来日事連が議員立法で行ってきたもので、指定法人には当然ながら日事連が最有力であろう。これにJIAが認定されるかどうかについては、必ずしも楽観を許さない状況であるという。JIAが建築家の集まりであって、建築士事務所の集まりとは認め難い、というのが最大の理由のようである。

以上のことは1月末に明らかになったもので、今後大きな波紋の広がりが予想される。指定法人は不要とする意見や、一方では定款を改正しても（会の目的、会員資格等）資格を整備し、認定を受けるべしとする意見など、議論を呼ぶことは必至である。

先の会員数データ分析に見る通り、日事連の1割にも満たない地域会は今にも呑み込まれそうである。



新支部長からの提言

私としてはこのBulletinを通じて最新の情報を支部会員にお伝えし、種々のチャンネルから各地域の意見を聴取して中央に反映させるのが当面の役割の一つと考えている。

是非活発な討議をお願いしたい。

5. 建築家資格制度に関して

前項の指定法人問題で、建築家資格制度の確立が急務になったように思える。

外的条件としては1999年にUIAが採択しようとしている建築家職能の推奨基準がWTOに反映される可能性が高いし、一方で建設省も建築設計分野における国際資格の相互承認について調査を始めるなど、日本の建築士制度の問題点が急にクローズアップされた感がある。

周知の如く建築家資格制度はJIAの悲願ともいえるものであり、内容は①教育、②実務訓練、③登録試験・審査、④継続教育の4項目で構成される。この内、我々の支部活動で参画実施できるのは継続教育であろう。現在本部、支部を問わず、各委員会で各種セミナー等を行っているが、それなりの成果は上がっているものの、戦略に一貫性が欠ける。これらを建築家資格制度における継続教育の準備段階として捉え、プログラムの内容をカ

テゴリー分けするなど、一貫性を持たせ、実績を重ねることが近い将来JIAにとって必ずプラスになると考える。すでに継続教育を行なっている、という実績が重要なのである。これらセミナーは東京のJIA館のみで開催するとは限らない。むしろ各地域で20~30名程度の小セミナーを重ねることが大切である。これにより建築家資格制度に対して底辺から盛り上げることになるばかりでなく、地域会の活性化や財政面へのプラスも期待できるかも知れない。

テーマや講師はいくらでも提供できよう。むしろそれが本部や支部内での東京の役割であると考えている。

6. Bulletinに期待するもの

会員が会費の対価として一番強く求めるのは的確な情報である。特に今回のように差し迫った問題が多発している場合には、内容をある程度噛み砕いたものをスピーディーに伝えることが大切になる。まずこの役割をBulletinに期待したい。

これらの情報を受けて、各委員会や部会、地域会で活発な議論が展開されるものと思うが、それらを吸い上げて次のステップへの糧としたい。つまり双方向の情報交換を誌上で行なえることが第二の期待である。

新支部長の提言を受けて

JIAの直面する諸問題について、服部新支部長の提示されたBulletinの役割への極めて具体的な要望を受けて、会員間の意見交換の場としての機能、会員への情報サービス機能の向上等が支部広報委員会に於いて討議されました。諸問題の解決には、問題意識への共通認識、誌面での具体的かつタイムリーな議論の展開が不可欠であり、月刊誌であるための[入稿]→[編集]→[印刷]→[発送]という発行サイ

クルを超えて、重要原稿についてはゲラの段階で次号執筆者に送付し、インタラクティブなシリーズものとして、JIAの直面する諸問題に対応していきます。

現在、各地域会代表、各委員会委員長経由にて、新支部長提言についての意見を募集中ですが、広く会員の意見を掲載する所存であり、執筆希望の方は編集委員会事務局まで是非御一報願います。

Bulletin編集委員会

戦後建築と共通の危機感



小島美子

「ごく自然に音楽する」

小島美子：音楽学者。現在の日本人にとって、もっとも自然な音楽はどういうものかを考えつづける。

1997年12月18日(休) 18:30~20:30

建築家会館1階ホール

司会：半谷良男会員

最初に後関JIAトーク委員会委員長より挨拶があり、次に清瀬会員からの小島さんの紹介の後、早速小島さんがお話を始められた。時々テープやCDを使っての音をききながらの講演会となった。

「あなたがた、どこさ、ひごさ、ひごどこさ……」子供たちがまりをつきながら、無邪気に歌っている童べ歌は誰に教えられたわけではなく、どんな音階かなど関係なしに、口伝えで自然に受け継がれて唄われて居る。

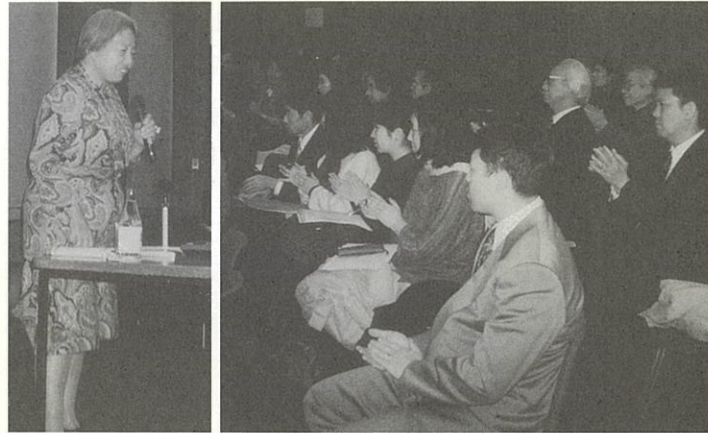
また九州の山奥のおばあさんたちが唄って呉れる歌は、自分の気持ちを自然に表した歌であり、最も自然な音楽が残っている。

それに引き替え、明治以後の音楽教育を受けた我々はクラシックの西欧音楽を勉強し、譜面に忠実に演奏することばかりやりすぎたのではないか。

日本全国、津々浦々に、文化ホールと称するホールが林立し、何んな用途に使われるのですか、と建築家の方にたずねても、ここの残響時間は何秒ですといった苦労話が出るだけで、その地域の音楽を自然に演奏する場として本当に相応しいのかと疑ってしまうと、我々建築家にとって耳の痛いご意見が出された。

日本各地にパイプオルガンを設置したホールが矢鱈に出来てパイプオルガンの数があれよあれよという中に10倍になってしまったが、演奏の出来る人がいなくて無用の長物と化しているという。

昨年10月に講演された一柳慧さんも、アフリカの人達が身の回りのもので作った打楽器で朝から晩までそれ



をたたいて楽しんでいるのが本当の音楽であると言われて、また西欧の人達がアジアの音楽に非常に興味を持って研究されているという話をきくにつれ、我々は何か忘れ物をしているのではないかと反省させられる。

クラシックを愛好し、コーラスなど歌っているのはそれはそれで良いとして、西欧の音楽だけに偏っていたのではないかと、極く限られたヨーロッパ系の音楽だけでなく、世界にはもっともっと広い意味の自然な音楽があること、また日本にも地方、地方に残された自然の音楽があったのに、どんどん忘れ去られて行こうとしているという危機感を痛感させられた。

質問の時間となり、たまたまJIA学芸祭レギュラーメンバーの、長唄名取の小林道夫さんと、薩摩琵琶の承継者の森園安男さんが居られたのでマイクを廻すと、「自分たちは楽しんで演奏し、聞いてもらいたいと演奏を続けているが、これらの芸術が今や、保存対象のものになりつつある」と悲痛な叫びが聞かれた。

明治以降の西欧万能の教育を受け、殊に戦後古き良き建築を壊してきてしまっ、今これではいけないという機運になりつつある建築家にとって、音楽の世界との共通性に深い感銘を受けた興味深い一夜であった。

〈リポーター 上波 亘〉

修復理念の再確認と 情報公開の必要性を学ぶ

アンコール遺跡修復の現場から

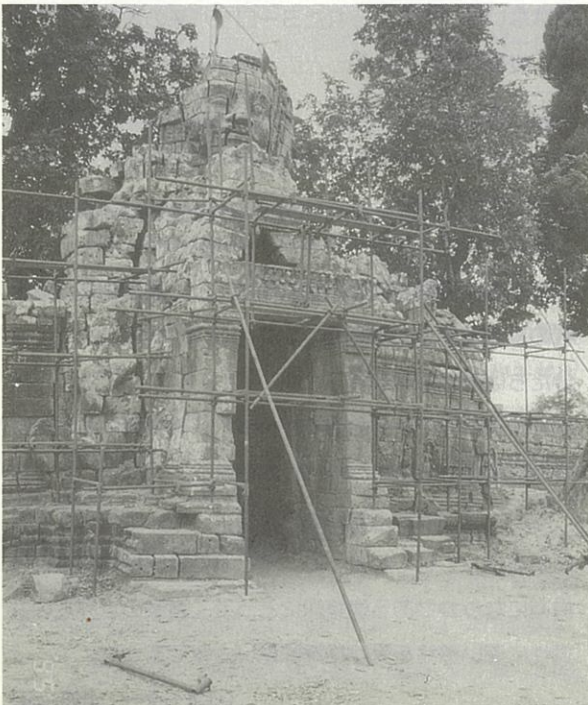


福田 省三

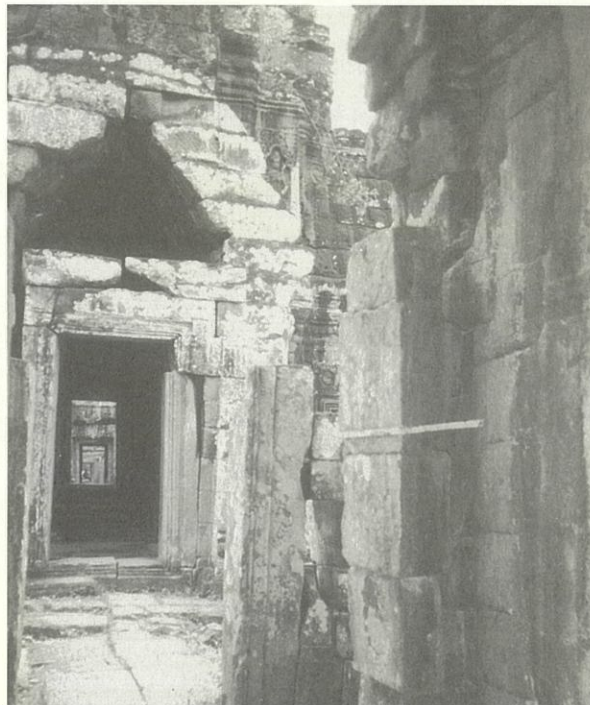
蒸し暑さの中、遺跡調査を開始したのは1993年12月のことである。これに先立つ約20年前よりアンコール遺跡国際調査団の母体である上智大学の石澤良昭教授を団長とするソフィア・ミッションは、アンコール遺跡の調査研究において建築はもとより地質・水質・美術・社会経済など、幅広い分野の専門家による調査を続け、大きな成果をあげ今日に至っている。特にこの度、12世紀に建造されたバンテアイ・クディ（Banteay kdei）遺跡の修復をふまえた本格的な建築調査が開始され、それへの参加となった。

調査団の基本的姿勢は次の通りである。

- ①カンボジアの遺跡修復はカンボジアの手で。我々は援助や支援であり、主体となるべきではない。
- ②遺跡の修復・調査・研究には、中期ないし長期にわたる視点が必要。
- ③オープンな国際協力関係の確立。
- ④成果の還元と共有化。



▲バンテアイ・クディ東塔門調査準備



▲バンテアイ・クディ内部

さてバンテアイ・クディ（僧房の砦の意）は東西700m、南北500mという広大な遺跡である。この遺跡はフランス極東学院が1920年から発掘・修復作業を続け、1954年にその活動を中止したものである。当時の報告書によると、土砂や植物に埋り倒壊した遺跡の生々しい姿や、25人の発掘班2チームが樹海に分け入りながら、苦勞の作業を続けた様子がわかる。毎晩の如く遺跡の崩落の音が響く中、緊急にアンコール遺跡を守るために汗した姿も伺い知ることができる。

調査は建築調査班の責任者である日本大学の片桐正夫教授の指導のもと、私の事務所と共同で作業を開始した。我々はこの遺跡の調査を通し、アンコール遺跡の保存修復を実施する方法論を確立し、保存修復に関する技術を発展させるための科学的データを収集することを目指している。

以来、早いもので6年が経つ。この間、石造遺跡の調査方法の確立、軟らかい砂岩を用いた遺跡の施工法や砂

岩の剥離の原因の解明、雨季と乾季の地下水位の変化に伴う遺跡全体の変則的な上下移動を観測するなど、大きな成果を得ることができた。特に高さ13.5mの東塔門では、研究解体をふまえた詳細な調査が行われ、フランス極東学院による当時の修復法をはじめ、石造遺跡の構造的な特徴など、多くの研究データを得た。

調査作業は酷暑の中、ひたすらの単純作業であり疲労を伴うものとなる。カンボジアの12月は乾季で、朝夕は軽井沢の夏を感じである。しかし日中は30度を超える暑さとなり、体力が勝負である。食事に馴染むには多少時間を要したが、なにより飲料水の確保に苦勞をする。一般の水道水などは茶色く濁っており、市販のミネラルウォーターであっても安全とは言い切れず、調査員のほとんどが一度は胃腸を壊すこととなる。遺跡に最も近い宿泊地であるシムリアップの町から調査地までは、車で約30分程かかる。当初は昼食をとり町まで帰っていたが作業時間の効率が悪く、やがてフランスパンに目玉焼の弁当を持参することとなる。毎日同じ昼食というのも疲れの原因となる。とは言え、毎回のように調査に参加するスタッフにとって、カンボジアとそのアンコール遺跡は、やがて第二の故郷のように恋しい存在となる。そんな魅力あふれる所である。

現地での調査作業は建築調査の他、地元住民の協力のもと、草取りや樹木の伐採などの遺跡整備、倒壊の危険のある遺跡箇所にも木製の支柱を立て崩壊の進行を防止する作業、倒壊の危険を知らせる看板を立てる作業が行われる。またプノンペン芸術大学の学生に、実際の調査を通じて修復指導を行うほか、職方には日本の石工が修復には不可欠な石工としての技術指導を行うなど、カンボ

ジアの人々の手で修復作業を行なってゆくための支援を進めている。

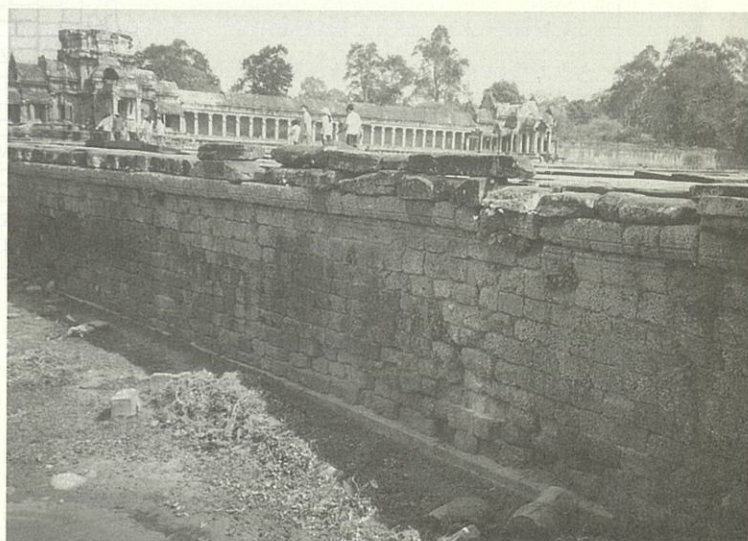
調査は原則として3月・8月・12月の大学の休みを利用して実施され、今日に至っているが、現在急務なのが、クメール芸術の中で最も壮大な、12世紀前半の建造物であるアンコール・ワット西参道の修復である。アンコール遺跡群の中でも最も有名な遺跡であるためご存じの方も多いと思われる。簡単に紹介すると、クメール王朝の王であったスールヤヴァルマンⅡ世により建造されたアンコール・ワットは、中央に高さ65mの大尖塔5基を持つ巨大な墳墓寺院である。その周囲には長さ5.5km・幅200mの環濠を巡らせ、さながら水のなかに浮かぶ須弥山を思わせ、夕暮れには補陀落渡海を彷彿とさせると言われる。遺跡には神話やヒンドゥの神々・仏像のレリーフが施され、アンコール宗教美術の粋を見ることが出来る。

幅12m・長さ200m・高さ4mの西参道はアンコール・ワットの主入口である。南半分はかつてフランス極東学院が修復し、北半分が未整備のまま残されているものである。今年から本格的な修復が開始される予定で、既に調査は2年をかけ完了している。側壁をラテライト積みで造り、版築によって築かれた砂岩敷の参道は、長い間に自然崩壊が進んだものである。フランス極東学院は、コンクリートによって版築面を覆い地盤を安定させる修復方法を行っているが、我々は創建時の工法を基本とした修復を試みるべく検討を進めている。

アンコール遺跡群はフランス極東学院による発掘で蘇って以来、近年急速に老朽化している。その原因のいくつかは良く知られているが、直接的な原因には、ポルポ



▲アンコールワット西参道 上(南)は修復済



▲アンコールワット西参道を側面から見る

海外レポート

ト時代に農業政策のため濠の水が抜かれたことが原因と考られている。水利によって都市造りをし、それを前提に築かれたアンコール遺跡が水を失った時、当然のように様々の障害が発生した。現在濠には水が戻されたが、濠に架かる参道を修復する我々には難問となっている。

さて、今までのように季節的に調査へ参加するのと違い、工事が開始されるとなると常駐的な体制となる。3年程前シムリアップに上智大学研究研修センターを設計監理した折、スタッフの一人が半年間の長期滞在をしたが、マラリヤや肝炎に冒された。しかしシムリアップの町には信頼できる病院がなく、プノンペンまで出向かなければ治療ができないなど苦勞した経験を持つので、これからの業務の大変さが思いやられるこの頃である。余談ながら、この研究研修センターの建築を通し、カンボジアの持つ社会的な様々な側面を知ることができた。特に建築工事では資材の盗難防止対策のため、まず敷地全体をブロック塀で囲うことから始めたり、当然のように常駐のガードマンを雇用する必要があった。シムリアップでは商品カタログが無く、仕上材や設備機器は市場で直接、目を見た品物を購入して使うことになる。その他数え上げたらきりが無いほど、便利さになれた日本人には信じ難いことばかりで、建築することの大変さを感じさせられた期間であった。

苦勞の多い海外での修復であるが、この間に多くのことを経験し学ぶことができた。

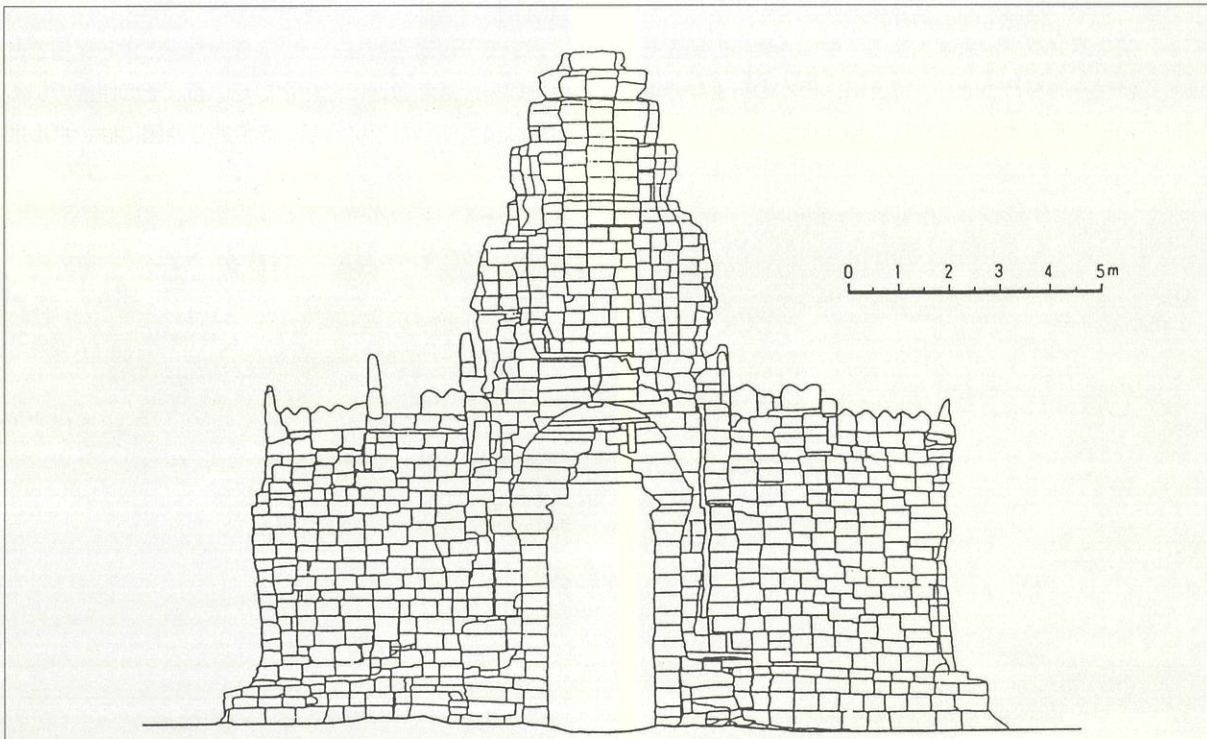
一つは修復理念の再認識である。世界文化遺産ということで、日常とかく忘れがちな修復の基本原則が常に求められる。Anastylosis（忠実性）やAuthenticity（真実性）の概念である。短絡的にいえば、日本の木造建築の修復では腐食した材を新材に替えるケースが場合によっては認められるが、ベニス憲章に基づけば、あくまでもオリジナルな部材の保存が求められる。

次に情報公開の必要性である。一般的にとかく狭い範囲の専門家・関係者で修復方針が決められ実施される場合が多いが、世界文化遺産でもありカンボジアという主体国のある修復では、情報を公開し広くコンセンサスを得て進めることが求められる。それに対応するため、修復に対する思想的裏付けという理論武装が不可欠となる。日常業務に流されがちな日々、文化財に対する原則的な取り組みの姿勢を問い直すのに良い機会を与えられたと思う。

アンコール遺跡修復の現場から多くのことを学んでいる日々であるが、『誰のための修復か』『何のための修復か』を常に忘れることなく、今後も着実に作業を続けてゆきたいと思う。

今後の予定はアンコール・ワット西参道に3年程、バンテアイ・クディは今後何年間どのように取り組んでゆくのかが不明である。ともかく焦ることなく、カンボジアの成長にあわせた気長な取り組み姿勢が求められる。

〈篠建文〉



▲バンテアイ・クディ東塔門東面石割図

関東甲信越支部役員選挙について

社団法人日本建築家協会
関東甲信越支部
選挙管理委員会
委員長 目良純

第3回告示：1998(平成10)年3月15日

1998年度役員選挙に関し、1月15日に第2回告示(補欠選挙)を行い、2月6日の締切りまでに下記の方々から立候補の届出があり、2月10日開催の選挙管理委員会において、立候補届出書に基づき、立候補者に関する資格審査を行いました結果、いずれも役員選出規定及び役員選挙細則による立候補者並びに推薦者としての資格を充足し、適格であることを確認するとともに、定員一杯の立候補であることから、全員を無投票当選として確定いたしましたので、第2回告示でお知らせしました当選者と併せてここに公報致します。

◇幹事当選者

東京都(補欠選挙人数2名・当選者2名) 阿部一尋・柳澤璋忠
茨城県(補欠選挙人数1名・当選者1名) 池田昭一

また監査立候補者については、資格審査の上、適格であることを確認致しましたので、「立候補者名簿」に搭載し、役員選出規定第2条5項により支部総会において選任することとなります。

幹事当選者名簿

神奈川



今井 俊一

いま い しゅん いち

1944年2月22日生

推薦者

金子 修司 池永 辰雄
阿部 一尋 三木 哲

略歴

1968年 工学院大学建築学科卒業
1968年 (株)三浦西野建築設計事務所入社
1973年 (株)武藤藤研究室入社
1977年 (株)AI建築設計事務所開設
代表取締役就任 現在に至る

所信/経済の低迷、大震災後の混乱など、いま日本の建築家の意味が問われています。特に、創作性の少ない普通の建物との係わりをいかにつくっていくかを考えなければならぬ。JIA活動においても地域活動という係わりをまともにやり続けることが肝心と考えています。微力ながらJIAの発展・充実に努めます。

推薦理由/地球環境を守り、サステナブルな使い続けて行く建築の必要性がますます高まる中、JIA神奈川のみならず支部活動を通じて建物保全に真摯に取り組んでおられます。今井氏の人柄と実行力はまとも役としても適任であります。支部での活躍を期待し推薦いたします。

(執筆：金子修司)

千葉



岩崎 哲朗

いわ さき てつ ろう

1937年4月26日生

推薦者

島貫 俊秀 田中 修一
麓 佳正 桜井 修

略歴

1962年3月 千葉大学工学部建築学科卒業
1962年4月 (株)久米建築事務所(現(株)久米設計)入社
1992年3月 (株)久米建築事務所退社
1992年4月 (株)シテイクリエート入社 現在に至る

所信/建築家を一般の方々にもっと知ってもらおうと必死のJIA、他国と異なりこういうことにエネルギーをつか

わなければならぬのは口惜しい。しかし何百年という過去からの伝統で礎かれたものへの挑戦なので事は簡単ではない。あせらない、努力の積み重ね以外方法はあるまい。微細だがほんのちよつとでも力になりたい。

推薦理由/岩崎さんは、JIA千葉の世話人を永らく務められ、千葉クラブを今日までまとめてきた会員です。クラブ内では事業委員長をつとめ、見学会の企画、実施等を行い、地域活動の先頭に立って進めておられます。千葉県四会学生賞では、JIAのメンバーとして、その審査委員長をつとめるなど、JIAの活動を深く理解されています。岩崎さんを次期支部幹事として推薦いたします。

(執筆：島貫俊秀)

千葉



村井 一知

むら い かず とも

1939年5月27日生

推薦者

島貫 俊秀 鶴巻 昭二
豊岡 康弘

略歴

1963年3月 武蔵工業大学工学部建築学科卒業
1963年4月~1973年2月 (株)奥村組設計部勤務
1974年2月 (株)村井建築設計事務所設立 現在に至る
所信/経済重視の社会の現状から文化重視の環境を確立する為に、地域の建築家として、JIAに期待して来ました。これからのこの観点から、支部活動に取り組みたいものです。又、地域の活性化を願う立場から多くの方々と共に考え、学びながら、微力ながら地域とJIAとの橋渡しが出来ればと思います。

推薦理由/村井さんはJIA千葉発足当時よりのメンバーであり、世話人会では総務委員長を務め、地域会を今日までまとめてきた会員です。又支部では選挙管理委員もつとめ、支部活動にも深く理解のある人です。その人柄は温厚かつ会員の信頼も厚く、支部と地域会のつなぎ役として又、今後の支部活性化のために次期幹事として村井さんを推薦いたします。

(執筆：島貫俊秀)

埼玉



猪狩 茂

い かり しげる

1943年6月7日生

推薦者

高遠 浩 若林 廣次
小沢 聖子 増谷 治郎

略歴

1943年 埼玉県生まれ
1968年 工学院大学建築学科卒業
1982年 猪狩設計事務所設立

所信/地域に根ざした活動をより一層進めていきたいと思っています。

推薦理由/猪狩茂氏はJIA埼玉の発足にたいしても熱心に参加され、一貫して会の活動に積極的に参加し、現在JIA埼玉の副代表として御尽力頂いておりますので、今後のJIA埼玉の指導的立場の人として、適任でありますので、JIA埼玉を代表し、幹事に推薦致します。

(執筆：高遠 浩)

茨城



池田 昭一

いけ だ しょう いち

1951年11月10日生

推薦者

根本日出男 滝田 庄平
塩川 文雄 金沢 重雄

略歴

1975年 武蔵工業大学建築学科卒業
1975~79年 建設会社工事部勤務
1980~87年 横須賀満夫建築設計事務所勤務

選挙広報

1988～97年 イオプランニング勤務
 1997年 NS建築デザイン研究所設立
所信／支部と茨城地域会の活性化の一助となるよう努力してまいりますと思ひます。
推薦理由／茨城地域会の創設以来のチャーターメンバーで、アクティブ会員として、地域会の活動に、大きな貢献があり、建築家としても有能な資質の持主で、支部役員に適任者であります。

(執筆：根本日出男)

長野



高橋重徳

たか はし しげ のり

1947年8月27日生

推薦者
 出澤 潔 松下 重雄
 上村 保弘 関 邦則

略歴

1966年3月 長野県岡谷南高等学校卒業
 1970年3月 武蔵工業大学工学部建築学科卒業
 1970年4月 (株)松田平田坂本設計事務所
 1972年5月 (株)ミサワホーム総合研究所
 1974年4月 (有)協立建築設計事務所
 1979年4月 (株)ローカル建築設計室
所信／このたび長野地域会の皆様から支部幹事のご推薦をいただきました。地域会と支部のパイプ役として、又JIAの発展のために精一杯の努力をさせていただきます。
推薦理由／高橋重徳氏は現在長野地域会の副会長、交流委員長としてJIA長野県クラブの活動の原動力となっており、又JIA関東甲信越支部総務委員も務めておられJIAに深い理解を持っておられます。建築家としても県景観アドバイザーなど地域社会に多大な貢献をされ作品に対しても数々の賞を受けておられます。JIAにとって大きな力になることをJIA長野県クラブ一同ご推薦申し上げます。(執筆：出澤 潔)

新潟



武蔵靖之

むさし やす ゆき

1941年2月18日生

推薦者
 渋谷 嘉雄 三富 謙二
 住吉 種郎

略歴

1964年 芝浦工業大学建築学科卒業
 1964年 集団制作建築事務所入所
 1969年 日設計事務所設立入所
 1974年 独立
 1977年 新潟に武蔵設計開設
 1980年 (株)鷺建築事務所設立と共に共同者として入所
 現在に至る
所信／地域と地域を結ぶパイプ役としてバランスのとれる新潟地域会になるよう貢献したい。新潟地域会が社会の中で存在感のある役割を果すべく貢献したい。
推薦理由／現在新潟地域会副代表であると共に支部保存問題委員であり支部の実情をよく知り積極的に活動されている方です。新潟地域会を代表するにふさわしい方と考え推薦いたします。(執筆：渋谷嘉雄)

東京



阿部一尋

あ べ かず ひろ

1944年12月18日生

推薦者
 服部 範二 齋藤 孝彦
 嶋津 民男 南條 洋雄

略歴

1944年12月 宮城県に生れる
 1967年3月 東京都立大学工学部建築工学科卒業
 1969年3月 同 修士課程終了

1969年4月 市浦都市開発建築コンサルタンツ入社、福岡事務所長・東京事務所長歴任後

1997年4月 住宅技術室長
 JIAにて支部事業委員長、幹事長、デザイン部会長を歴任
 現在本部総務委員長、支部建築への旅実行委員長

所信／現在、本部・支部共に財政問題が厳しくなっており、様々な対策を進めています。今後の見通しも明るくありませんが、新支部長を補佐しながら乗り切りたいと考えています。会員の努力で多様な事業が企画・実施されています。市民との交流も図りながら、これら事業を活性化すると共に、上手な事業運営が進められ財政上もプラスとなるような工夫を考えていきたいと思ひます。

推薦理由／阿部一尋さんはその経歴の示す通りJIAの数々の要職をこなし、なくてはならない人物です。支部の直面する大きな課題の一つは会員減少からくる財政問題にあり、本部総務委員長としての手腕に大いに期待しております。(執筆：服部範二)

東京



阿部光伸

あ べ みつ のぶ

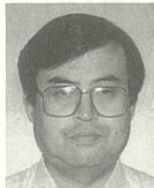
1953年11月21日生

推薦者
 東 直彦 南條 洋雄
 阿部 一尋

略歴

1953年 東京生まれ
 1976年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 1978年 早稲田大学院理工学研究科卒業
 1978年 (株)梓設計入社
 現在JIA NEWS編集委員会委員 関東甲信越支部建築セミナー委員会委員
所信／今、大きな変革期にある建築界においては、今後、設計者・施工者そして行政の関係がはつきりし、より明確な責任分担がなされていくことは必須であります。このような中において建築家の職能(資格者問題も含む)認識については、建前論・実態論が錯綜する中で、より現実的な議論がなされなくてはなりません。また机の上の議論のみならず、地に足ついた社会的な活動をより活性化する必要もあろうでしょう。JIAにおける今までの活動を生かしながら、今後の支部のあるべき姿を多くの方々との協力を通して創り上げていきたいと思ひます。
推薦理由／阿部光伸さんとはJIA設立時以来、デザイン部会で共に活動して参りました。組織事務所でのビッグプロジェクト経験と個人としての建築家の視点とを兼ね備えた貴重な会員として高く評価しております。JIA活動にも深くかかわり、支部の課題も知りつくした、今最も期待できる候補者と断言できます。91年にはブラジルツアーにも参加され、その人柄に魅せられました。多くの支部会員が阿部さんに協力する気持ちでおり、当選を期待しております。(執筆：南條洋雄)

東京



近藤武志

こん どう たけ し

1948年7月10日生

推薦者
 三木 哲 星川晃二郎
 田辺 邦男 今井 俊一

略歴

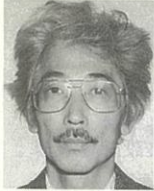
1972年 関東学院大学建築設備工学科卒業
 1973年 関東学院大学建設工学専攻科修了
 1973年 技術士事務所交通技術研究所研究員(建築担当)
 1977年 八生設計事務所設立 現在に至る
所信／メンテナンス部会の推薦により立候補しました。建築界はバブル経済の崩壊とともに、スクラップ&ビルドよりメンテナンス・リフォーム・リニューアルへ大きく転換しようとしています。トータルリフォームへの研究・実践活動の経験が支部活動に役立てればと思ひます。
推薦理由／近藤さんは、明朗快活、現在メンテナンス部会の主要メンバーとして実践仕様書の作成ほか、精力的に活躍しています。メンテナンスやリニューアルは、地

選挙広報

球環境や社会環境をふまえこれから建築界に大きな比重を占めていくことを考えると、JIAの活動に幹事として大いに貢献出来るものと確信いたします。

(執筆者：星川晃二郎)

東京



伊藤 宏司

いとう ひろし

1946年7月7日生

推薦者
渡辺 武信
香川 昌美 今井 均

略歴

1970年 関東学院大学建築学科卒業
1970年 鈴木恂アトリエ入社
1974年 関東学院大学修士課程修了
1974年 渡辺武信設計室入社
1977年 伊藤陸川設計室を設立 現在に至る
関東学院大学非常勤講師

所信／大きな転換期を迎えているなか、設計事務所の方や業務の内容・やり方等が大きく変化しています。JIAの役割はますます重要になってきています。会員にとって的確かつタイムリーな情報の提供や各種の相談窓口であることが求められています。大変微力ではありますが皆様と一緒に時代に合ったJIAづくりに参加できたらと考えます。

推薦理由／伊藤さんは旧JAA時代より住宅部会のメンバーとして活躍しつつ湘南インドアテニスクラブ(1985)、高沢邸、三瓶邸(神奈川県建築コンクール奨励賞1990)など、優れた業績を残されてきました。建築家としての資質の豊かさ、志操の堅固さに加えて、柔軟な発想や確実な実行力は当支部の運営に大きな戦力となるものと期待し、支部役員会に新風をもたらす人材として推薦いたします。(執筆者：渡辺武信)

東京



小池 正人

こいけ まさと

1958年11月11日生

推薦者
樋口 修
安達 治雄 香川 精二

略歴

1981年3月 国学院大学経済学部経済学科卒業
1983年3月 専門学校中央工学校建築設計科卒業
1983年4月 (株)小勝(おがつ)建築設計事務所入社
1993年4月 (株)小池建築設計事務所入社 現在に至る

所信／入会以来多くの行事に参加させて頂きました。建築家の地域活動について中野クラブの方々、他多くの方から学ぶ事ばかりで大変有意義な2年間でした。そこで来年度は役員としてお手伝いするべきと考え、立候補致します。

推薦理由／小池氏はJIA中野クラブで最も活動的なメンバーの1人です。東京における地域活動のあり方をめぐって支部内においても議論が高まると予想される今日、氏に中野における体験からの発言を期待させて頂く次第です。(執筆者：安達治雄)

東京



小島 孝豊

こじま たか とよ

1942年2月1日生

推薦者
松枝 雅子 泉本 晋
阿部 章 市川 皓一

略歴

1966年 東京都立大学建築科卒業
1966～69年 (株)堀田英二建築設計事務所勤務
1969～78年 (株)MCA設計開設に伴い移籍
1978年～ (株)IK都市・建築企画研究所

所信／JIAの社会的影響は大きいものがあります。その役割に等しく、社会貢献をするべきです。そのために、JIAをもっと広く開かれた組織にしなければならない。会員に対しても、社会に対しても。

推薦理由／小島孝豊氏は業務部会長として、多面にわたる課題をかかえ、ともすれば散漫になりがちな部会の活動をまとめてこられました。これは氏の円満で沈着な人柄に負うところが大きかったと思います。これからのJIAをリードしてゆくのにふさわしい建築家として幹事に推薦します。(執筆者：松枝雅子)

東京



篠田 義男

しの だ よし お

1946年12月20日生

推薦者
兼松 紘一郎
松嶋 哲英 夏目 勝也

略歴

1946年 千葉県船橋市に生まれる
1969年 明治大学工学部建築学科卒業
1971年 明治大学大学院工学研究科修士課程修了
1971～1990年 坂倉建築研究所勤務
1991年 (株)篠田義男建築研究所設立代表取締役就任
1995年 明治大学理工学部建築学科非常勤講師就任

所信／世界があまりにも複雑で巨大であるが故に、情報としての“危機”は十分すぎる程に理解できるのに、私達自身の“危機”としては認識できません。私達の組織(JIA)も現在その様な事に似かよった状況にある様に思われます。十年一日の様な“組織論”的なものでないJIAの“危機”あるいは建築家の“危機”を私達の仲間と語り合い、認識する事より始めたいと存じます。私にその“力”があるかどうかは別にして

推薦理由／篠田氏はすぐれた見識と実行力によって保存問題委員として活発な活動をしてこられました。このパワーを支部活動の上でも発揮していただきたく推薦いたします。(執筆者：兼松紘一郎)

東京



関 洋之

せき ひろ ゆき

1954年6月30日生

推薦者
米田 耕司 石川 正三
尾崎 英二 嶋津 民男

略歴

1977年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1979年 同大学大学院理工学研究科建設工学博士課程前期修了
1979年 (株)梓設計入社構造部勤務
1995年 同国際部勤務(西アフリカ・コートジボアール共和国・アビジャン駐在)

1996年 同設計本部勤務

所信／今までのJIAでの活動を通じて、「常に参加し続ける」ことの大切さを痛感しました。日本そして世界の政治経済が大きな転換期を迎えている現在、建築界も不透明な状況にありますが、目をそらすことなく積極的に参加し続けたいと思います。今回の推薦をお受けすることで、自分自身の決意を新たにすることができました。

推薦理由／関洋之氏は東京都学生卒業設計コンクール第1回、第2回と学生デザイン実行委員会委員として、発足当初より大変御尽力される等、JIAの発展に大いなる努力を払われました。又、当建築相談委員会首都圏相談室員としても冷静かつ情熱的に相談対応され、建築家の姿勢にふさわしく真摯な態度で望んでおられます。今後のJIAを担う有力な人物として期待して余りあるものと確信し、支部幹事に御推薦申し上げます。(執筆者：米田耕司)

選挙広報

東京



田嶋成幸
た じま しげ ゆき

1939年12月29日生

推薦者
石原 直次 谷口 純市
左 知子

略歴

1963年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1965年 早稲田大学大学院建設工学科修士卒業
1965年 横山建築構造設計事務所入社20年間勤務
1985年 田嶋建築構造設計事務所設立現在に至る
1996年 JIA関東甲信越支部会員委員会委員を務める
所信／実務の時間の枠外で限られた時間の中での活動になると思いますが会員の連絡に微力を注がせていただきます。会員委員会2年目として建築家の役割について考える機会として大切にしてゆきたいと思ひます。
推薦理由／常に遊び心を持つ、JIA仲間とも楽しく話ができる建築家であり、支部幹事としての活躍が期待できる方と思ひます。(執筆：石原直次)

東京



森田克彌
もり た かつ や

1945年9月22日生

推薦者
大河原淳一郎 高 俊民
澤 一郎

略歴

1972年 クラブルック・アカデミー・オブ・アート大学院 (USA) 建築学課修士課程修了
1974~1982年 丹下健三・都市建築設計研究所 在籍
1986年 森田克彌+ARCHIVESTA設立
所信／“顔が見える会”“地域に密接した会”という主旨に加え、我々建築家 (JIA) の存在をアピールし、よい建築への感心と認識を高めるなど、地域と交流を計ることも理念とし、「活動」を軸にし、発展させたい。
推薦理由／森田さんは総務委員会に於て東京の地域会問題を担当しその設立案を高氏と共に作成されました。又現在検討している諸問題に清新な意見を述べられており総務委員会にとって大切な存在となっております。今後支部運営に積極的に携わって下さる事を願ひここに幹事に推薦致します。(執筆：大河原淳一郎)

東京



柳澤璋忠
やなぎ さわ あき ただ

1938年12月28日生

推薦者
佐々木 群 松原 忠策
有田 桂吉 服部 範二

略歴

1962年 名古屋工業大学建築学科卒業
同年 株式会社久米建築事務所に入社、設計室勤務
1975年 タイ国に監理業務のため1年間滞在
1992年 技術情報部統括部長として情報、電算、品質、研修を担当
1997年 常務取締役国際担当となる
所信／社内のサービス部門での、情報、電算、品質管理、研修の経験を生かして、顧客満足の精神でJIAに貢献できればよいと思ひます。
推薦理由／柳澤さんは30年以上に渡り建築の設計と監理の業務に数多くの実績を持たれ、最近では電算関連の知識をもとに情報や品質管理の業務に携わられています。JIAについても「建築部品推奨制度委員会」の委員等をされ、今年からはラージファーム懇談会の幹事としても活躍されることになりました。このようなご経歴が示すように建築の設計と生産の実務に優れ、その深い知識をもとにJIAが建築に関わる基本を重視する立場のリード役として貴重な人材であると思ひます。(執筆：松原忠策)

東京



横谷英之
よこ や ひで ゆき

1951年10月8日生

推薦者
小倉 善明 斎藤 孝彦
栗生 明 三栖 邦博

略歴

1976年3月 東京芸術大学美術学部建築科卒業
1978年3月 同大学大学院美術研究科建築設計専攻修了
同年4月 株式会社日建設計入社
1987年10月 同社設計主管 (東京)
1977年4月 同社東京本社設計室長 現在に至る
明治大学理工学部兼任講師
所信／海外プロジェクトや国内での外国事務所とのジョイントを通して、建築家という職能は、それぞれの国と地域に固有の建築生産システムの上に成立しているという、あたり前の事実気づかされました。国際化という時代の流れは私たちに、相互の差異に対する深い理解と、自らの立脚点に対する厳密な認識を強く求めていると感じています。
JIAの活動に、微力ながら何らかの貢献ができればと願っています。
推薦理由／横谷英之さんは、芸大卒業後、日建設計に入社、現在若手の設計室長として、国内のみならず海外プロジェクトにも参加、広い視野で建築をとらえている意欲的な建築家です。これまでJIAでは、数回に及び模型展を支え、一昨年の軽井沢大会でも、欠かすことのできない人材として活躍して参りました。ここに幹事として、定常的に支部での活躍を期待して推薦致します。(執筆：小倉善明)

監査候補者名簿



松本金弥
まつ もと きん や

1950年11月30日生

略歴

1974年 明治大学工学部建築学科卒業
1974年 (株)石井設計入社
1988年 (株)石井設計退社
1988年 (株)松本金弥建築計画事務所開設 現在に至る
1995、96年 JIA群馬クラブ代表、現在JIA保存問題委員
所信／本年3月まで群馬クラブの代表を務めて「地域クラブ」とは何か？をメンバーと共に考えてきて、ようやくその姿が明確になってきたと思ひます。しかし、地域活動をすればする程、矛盾も多くなります。地域で活動するJIAメンバーにとってその活動は真に意義深いものでなければなりません、その為には支部活動に感心を持ち理解する必要があります。従って監査役の候補推薦をお受けする事にしました。
推薦理由／松本さんは県クラブ代表を務められ、群馬クラブの為に貢献していただきました。今後共、支部と地域クラブのパイプ役として、期待をしております。ここに監査候補として推薦させていただきます。(執筆：唐澤 勉)

師匠譲りの55%, 15~18



井上 博

Bulletin123号12頁の大宇根弘司氏の「現代建築と打放しコンクリート」を読んだ。大宇根氏のように設計界の指導的立場にある人でさえ、正しいコンクリートの認識に欠けておられるかと思うのは大変悲しい。

1950年代の初め、京大の坂静雄教授の講義の一節に「世界のコンクリートには、硬練りと軟練りの二つの流れがある。日本は軟練りです」と聞いた時に、なぜ二通りあって、なぜ日本は軟練りなのですか?と聞きたかったが、つい聞きそびれてしまった。これを再び思い出したのは1958年、岡本剛先輩の事務所に弟子入りしてからである。当時レーモンド事務所のスター構造家から独立して事務所を開かれたばかりの先生は、レーモンド仕込みのせいか日本の基規準よりもアメリカのそれらを重視して居られた。そして、水セメント比は55%以下、スランプは15~18が事務所規準であった。

4年間燻陶を受けた後に独立した私は師匠譲りの55%, 15~18を守りつづけて来たが、たまにジャンカはあっても乾燥収縮によるヒビ割れに悩まされたことは殆んどない。当時は一般的にはスランプ20~22程度であった。特に打放しの場合はジャンカを作らないために、肌を美しく打ち上げるために軟か目のコンクリートとしてスランプ21~22を指定している建築家が居た。

つい数年前になって漸くスランプ18が建て前となったが、それでもスランプに対するJISの許容誤差は±2.5cmなので、現場の人が「スランプ18、但し軟か目!」と云って発注するとスランプ20前後の生コンが搬入される。

大宇根氏が見て廻られた欧米の建物はスランプ4~5インチ(10~13cm)の「硬練りのコンクリート」。そして日本のヒビだらけのコンクリートはスランプ20前後の「軟練りコンクリート」である。

生コンの練り水が少なくスランプが小さいと、打設時には苦勞するが、硬化後のコンクリートはメンテナンスフリーとなる。

硬練り生コンの打設時の注意は

- ①生コンの性情に詳しい現場マンが必要、しかし、最近の現場マンには殆ど生コンの知識がないからコンクリートコンサルタントの存在が必要
- ②バイブレーターは生コンポンプの筒先に「充填用のパイプ(50~60φ)が2本必要で、その他に、打設後15~20分後にかける”締め固め用パイプ(40φ)が1本必要である。

その他に、これは設計者用の注意事項として

- ①外壁の厚さは25cm以上、カブリ厚さは4cm以上
- ②スラブ厚さもできれば25cm。(その代り小梁がなくてすむ)一等々である。

私は年来、マンションの壁と床は25cm以上を主張している。壁構造に関する高さ(18m以下)階数(5階以下)のツマラヌ制限さえなければ軒高31m位のものでも壁構造で可能である。柱型、梁形、小梁のない建物は型枠工事、鉄筋工事が物凄く楽で、完成建物の内部空間は美しく使い勝手がよい。厚い壁・床は遮音性に富むし、硬練りコンクリートは耐久性抜群で、それこそ200年位は十分にもつ。水セメ比50%, スランプ13, 壁厚床厚25cm, カブリ4cmで筆者が設計したマンションは素人の入居者の目にすら「立派なコンクリートで頼り甲斐がある。子供が跳ね廻っても、少しも騒音クレームが来ない」と大好評である。10年15年経過するとメンテナンス費で他のマンションとの差が出て来て性能の良さが一層きわだって来る。たまたま配管漏水で床が水浸しになった一戸があったが、直下階の内装には全然影響がなかった。ウォータープルーフのマンションである。

以上の生コン技術論を詳述したのが建築技術社刊の「ザ・生コン」である。この本をテキストにして建築家協会の全支部を巡回講演したいものと考えている。

〈井上博設計事務所主宰〉

ほぞんもんだい

1枚の要望書から

誠之堂、清風亭の深谷市への移築保存



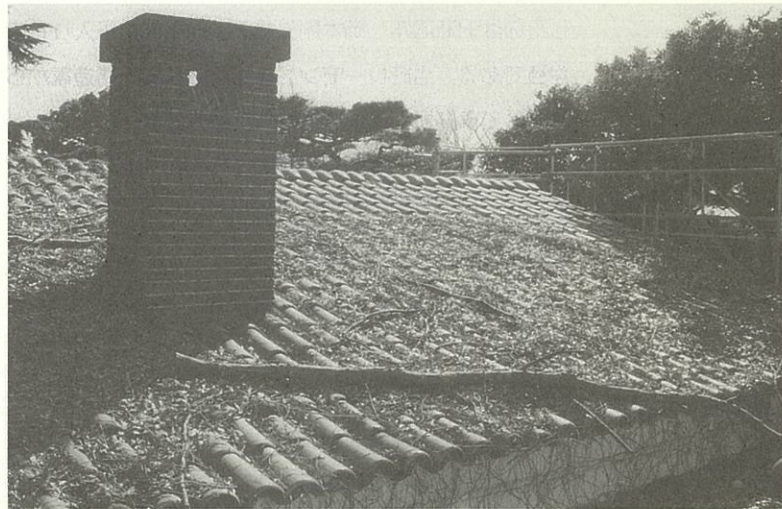
松本 金 弥(群馬)

誠之堂と清風亭は第一勧業銀行が世田谷の聖マリア園内に所有している建築で、誠之堂は同行の創業者渋沢栄一翁の喜寿を、清風亭は第一銀行2代頭取佐々木勇助氏の古希を記念して、共に清水組（誠之堂は清水組技師長田辺淳吉、清風亭は同じく技師西村好時による設計）によって建築された。これらはレンガ造とコンクリート造の違いはありますが大正期近代建築を代表する建築であることには違いありません。保存問題委員会では誠之堂、清風亭が解体されることを知り、関係者に両建物を保存するよう要望書を提出することを決めました。

その要望書の具体的な内容、その後の対応を検討しているさなか、渋沢栄一翁の出身地深谷市が所有者である第一勧銀と誠之堂、清風亭の移築受入れで合意したという連絡を受け、深谷市に対して急遽、受け入れを決断し

てくれたことに対してエールを送り、深谷市への協力を伝えました。その後市側から解体移築保存に関する委員会を発足させるので、そのメンバーとして兼松委員長に参加要請があり協力することになりました。

1枚の要望書から始まった一連の保存問題委員会の活動も遂に解体移築保存プロジェクトに参加し、意見を述べる立場になりました。このことは大変意義深いことで



▲清風亭



◀誠之堂

▲誠之堂



あり、責任の重いことです。又このプロジェクトが完了した時に保存問題委員会が得る貴重な体験は今後の活動に反映出来ると思います。

〔誠之堂、清風亭保存の経緯〕

- 平成9年10月8日 第一勧業銀行宛に要望書提出
- 平成9年10月21日 清水建設株式会社宛に要望書提出
- 平成9年12月16日 第一勧業銀行より要望書に対する回答受取
- 平成10年1月22日 深谷市長宛に要望書提出
- 平成10年1月22日 深谷市教育委員会宛に要望書提出
- 平成10年1月22日 深谷市長と面会、兼松委員長に「誠之堂及び清風亭移築保存調査委員会」のメンバーになることを要請される
(委員長鈴木博之東大教授)
- 平成10年2月1日 誠之堂、清風亭の現況見学
- 平成10年2月9日 「誠之堂及び清風亭移築保存調査委員会第1回会議」兼松委員長出席

ところで、深谷市は埼玉県北部に位置する人口10万人の市で、中山道の宿場町としての街道沿いの伝統的なイメージと渋沢栄一翁が明治20年に作った日本レンガ工場を中心とした地域の、ある種欧風的なノスタルジックな雰囲気のある2面性を持った街です。渋沢翁の誕生地深谷市に誠之堂と清風亭を移築保存することに決った今、移築保存の意義を改めて考えてみると色々問題が見えてくると思います。例えば歴史的には渋沢翁を中心とした歴史の流れの中にありますが、両建築は世田谷に存在した第一勧業銀行の一連の歴史の中にあり、深谷の渋沢翁の生家、レンガ工場は同じ場所にある必然性がないことです。又移築場所、利用方法、周辺整備等問題点はありますが、保存問題委員会としての的確な意見と具体的な方法を提示していきたいと思ひます。

〈株松本金彌建築計画事務所主宰〉



▲解体調査中の清風亭

平成9年12月16日

社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部支部長 斎藤 孝彦 様
保存問題委員会委員長 兼松 紘一郎 様

株式会社 第一勧業銀行
頭取 杉田 力之

「誠之堂」および「清風亭」の保存について

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
当行業務につきましては、日頃より格別のご高配を賜り、誠に有難く厚くお礼申し上げます。

さて、当行が所有しておりました「誠之堂」および「清風亭」につきましては、埼玉県深谷市からのご要請を受け、移築保存のために、11月25日付で同市へ譲渡いたしましたので、ここに
ご報告させていただきます。

深谷市では現在「渋沢栄一翁の顕彰とレンガを活かしたまちづくり」をスローガンに都市づくりを展開中ですが、両建築物を市の活性化の中核的施設として活用して行くとの計画です。

両建築物を渋沢栄一翁生誕の地である深谷市において保存し、広く社会一般に公開していただくことで由緒ある建築物を後世に末永く継承して行くことができるものと考えております。

本件につきましては、貴協会より頂戴いたしました貴重なご意見を踏まえ検討を重ねて参りました結果、上記の結論に至ったものでございます。

「誠之堂」および「清風亭」に深甚なるご理解とご助言を賜りましたことに厚くお礼を申し上げますとともに、ご報告が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

末筆ながら、貴協会の益々のご発展を心より祈念申し上げ、ご挨拶かたがたご報告に代えさせていただきます。

敬具

▲第一勧業銀行からの回答書

都市デザイン

住まうためのまちづくり



渋田 一彦

司馬遼太郎の随想集「風塵抄」の、冒頭に、都市の色使いについて苦言を呈した一遍がある。街道やまちなみ、そこでの人々の生活に深い関心を持つ筆者であるが、建物の色ではなく、“都市色彩”という表現をしているところが興味深い。

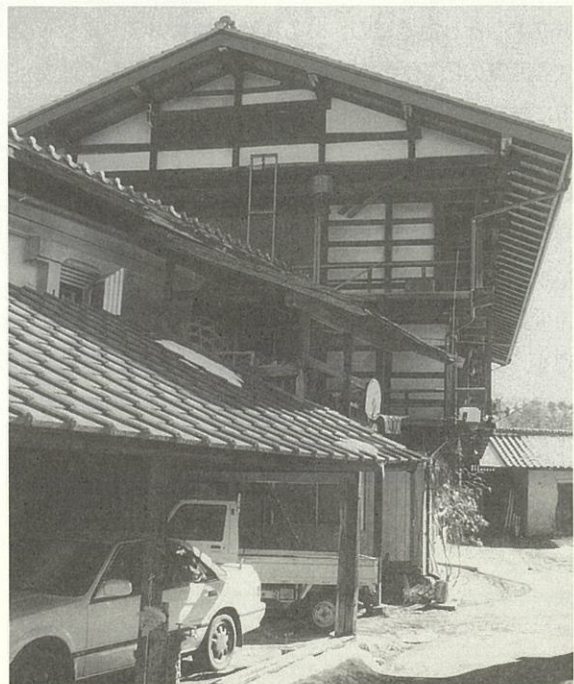
昨年の都市デザインセミナーで、五十嵐敬喜法政大学教授は、3大職能についてこう述べられた。医師は人の健康を守り、弁護士は人の権利や経済を守る。建築家は都市の美を守るはすが、実は破壊している。

まちなみの中でその建築がどう見えるかを考え、周囲に調和するよう設計することは、すべての建築家が心がけていることであろうが、私は都市デザイン部会の活動の中で、いっそうその感を深めている。都市景観に対する批判がある一方で、相変わらず自己本位の建物が造られ続けていくのには、都市景観やまちづくりに対する人々の関心が、建築主を含めて低いことが根底にあるのだろう。よくやり玉にあがるマンションであるが、見識あるデベロッパーは、周囲の環境や、オーナーに引き渡した後の維持管理にも気を使う。自己の責任において生み出した都市資産の評価が、結局はそのデベロッパーについて回るということに気がついているからである。これから、住宅供給戸数が減少し、数多いデベロッパー間の生き残り競争の中で、真に評価の高いマンションが生まれてくる可能性が高い。

ガイドラインに添ってまちづくりが行われている幕張新都心住宅地区では、その特徴である中庭を利用した催しが住民主体で行われるなど、居住者のこの町への愛着と誇りが感じられ、マンションの新しい住み方が予感される。その中で幕張中央公園に近い街区の設計を担当した。都市環境研究所の土田旭さんがブロックアーキテクト、都市デザイン部会長の南條洋雄さん、SKMの柴田知彦さん、私の3人が建築を担当し、ランドスケープに上山良子さん、照明に近田玲子さん、色彩計画に吉田慎吾さんを迎えた密度の高いコラボレーションの成果は、コストを含む様々の障害を乗り越え、2000年夏に出現予定。

利根川上流の吾妻川をせき止める、治水利水目的のハッ場ダムは、川原湯温泉街を含む5つの集落を水面下に飲み込む。ダム建設は戦後間もない時期に立案されたが、長い係争の時を経てようやく着工に向けた準備が始まった。道路や線路、橋の付け替え、沈む集落の移転先の計画などである。一昨年来、私は、ダム本体に取りかかる前段の整備事業の一環である、長野原地区のモデルまちなみづくりに取り組む機会を得た。道路計画や大まかな宅地割り計画はすでに終わっており、我々の仕事は、新しいまちをどうやって造っていくか、実際に数軒のモデル住宅と、インフォメーションセンター（ハッ場ダムに関する情報やまちづくり、住宅造りの様々な資料を展示する予定）を造って示すことにあった。延藤安弘千葉大学教授を地元での講演会にお呼びして、「住まい手自身で地域の宝を探しだし、それをテーマにしたまちづくりをしよう」といった話をお聞きし、またその夜、川原湯温泉に浸りながら語り合った。この地域の伝統的な民家は、せがい造りまたは出桁造りと呼ばれる。モデル住宅はこれをモチーフとしたが、内部はもちろん現代的な生活に対応できるプランになっている。3月に竣工し、6月にはインフォメーションセンターに展示品を納めて公開される予定だ。地域の人々の心に響くものになることを期待するばかりである。

〈日建ハウジングシステム技術部長〉



建築相談委員会

信頼されるべきJIA会員



委員長 嶋津民男

当初、社会に対する接点……と、建築相談委員会の前身が関東甲信越支部に設けられたのが20年前、JIAに移行して10年たつ現在に至ってはJIA本部の意思として、建築相談活動は全国展開を目指しています。

実際に各地域や支部の現状を見ると、東北三県・近畿・東海ほか多くのエリアで相談室が設置され活発に活動がなされてきているという状況の様です。

関東甲信越支部内でも、地域会単位の相談室が芽を吹き始めているようで、千葉に相談室が出来、埼玉も準備中という状況で、東京の首都圏建築相談室という名前が変更を求め始めていると最近感じる次第です。

その首都圏建築相談室では相談件数が年々うなぎ登りに増加し、毎週末〈新宿東京電力支社会場〉〈住宅金融公庫本店会場〉〈JIA館グラウンドフロア会場〉の3会場で実施している相談会がリクエストに答えきれない状態が続いていて年間500こまの相談窓口をゆうに越える勢いで相談があり、相談室員のシフトに支障を来すような状態も予測されています。

特にこれらの要因として、日本弁護士連合会への協力で〔欠陥商品・住宅110番〕に参加したことも大きいと思います。

そのばたばたのなか「誰が相談対応しても、最低限の基本理念は共通的に守られる……説明、主旨の平均化」をめざして、全ての相談案件について、毎月建築相談室内部で建築相談室報告会を開催し、相談対応した相談室員がそれぞれ対応内容を報告する形式で発表をおこない、その場で対応の内容の妥当性、アフターケア措置等に対して議論をしています。

その報告会の中に、本来望むべくもないことが現実に起きています。トータルで1160件と件数が多いことも影響してはいるのですが、平成8年4月より昨年11月まで約1年半の間で、一般相談者からの相談で会員にまつわる相談の件数が15件以上あると言う事実です。

建築家が新しいクライアントと遭遇し共有の空間を編み出してゆこうという中で、いろいろな考え方や感性の衝突、意見の食い違い等あるのは当然のことです。しかしトラブルという形で持ち込まれること自体があまり望

むものでは無いと考えます。

これら会員のかかわる案件については、建築相談委員会のなかのルールとして実施していることがあります。それは、相談内容検討の上、必要と考えられる相談案件について、相談者側の意見聴取結果だけでの判断及び行動（現地調査の実施など）するのは慎重を期すことです。相談担当者・委員長・相談室長ほか、会員と面談し背景等をうかがい、且つ、早期解決を促し、結果の報告を会員から受けるというものです。会員面談を実施した件数は全体の約半数、もちろん、正当なる相談依頼者の利益を守ることを視野に入れ対応しています。

委員会の対応をとりあえずご案内しましたが、JIAの会員であるということは、基本的にこのようなことが起こってはいけないことは当然と思いますが、よしんば起こってしまった場合、それを真摯にとらえた上で、JIA建築家憲章にもあるように、きちんとしたスタンスに己を置き、それらを収束すること。これが建築家が果たすべきことではないでしょうか。

あえて提言させていただくとすれば、このような会員関連の相談があった場合、当初の状況・事情確認は当委員会が行うことについては、吝かではないのですが、その後のJIAの対応として、なにかしらシステムを作ってDISCLOSEすべき時期がすでに来ていると考えます。

大げさではなく、JIAがこのまま何も行動しないと、行政革命にあえぐ省庁の問題や、一連の証券会社・銀行問題と同様、JIAが足元から崩れていくことも考えられます。

先ほど15件以上の案件があると言いましたが、それ以外にも相談者が建築家の名前をいえないと言う案件も数件、また会員のご子息の設計について相談を相談を持ちかけられた案件も数件あります。

こともあろうに、同じ会員に対して3回も別の相談者から相談が来るような事実もあり、どうなっているの？……と考えさせられるときもあります。

かく言う私自身も相談の経験を通じ、いつも甘い自分を戒めているつもりではありますが、みなさんもお心ください。

イベントセミナー情報

「建築セミナー'98」受講者募集案内

講座名 建築セミナー'98

定員 50名

受講資格 設計実務に携わっている方。
建築または当セミナーに興味のある方。
年齢、実務の経験は問いません。

講習期間 1年間（4月開講）
原則として毎週1回、火曜日開催
午後6時30分～9時00分
（予備日は、講師の都合等により振り替えるためのもので原則として講義はありません。）

会場 JIA館 3階セミナールーム

住所：東京都渋谷区神宮前2-3-18

電話：03-3408-8291

交通：地下鉄銀座線外苑前 徒歩7分

JR千駄ヶ谷駅 徒歩10分

JR原宿駅 徒歩12分

受講料 160,000円（消費税を含む）
計画演習(2)・(3)は、八王子大学セミナーハウスで行います。宿泊費・食事代は受講料に含

まれています。空間体験（見学会）につきましては交通費等の実費を頂く場合もあります。

申込方法 「受講申込書」に必要事項をご記入の上、1998年4月3日(金)までに、郵送またはFAXで、JIA「建築セミナー事務局」へお申し込み下さい。

参加確認 上記方法によりお申し込み後、3日以内に受講料を下記銀行宛にお振込み下さい。（振り込み手数料は別途ご負担願います。）

ご入金を確認しましたら、受講証等を郵送します。

企画運営 社団法人日本建築家協会関東甲信越支部建築セミナー実行委員会

【申し込み先・お問い合わせ】

社団法人日本建築家協会 JIA 関東甲信越支部

「建築セミナー事務局」（担当：井上）

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館4階

TEL/03-3408-8291 FAX/03-3408-8294

〈講座概要〉

若い建築家に贈る	村尾 成文	記憶をひきつぐ～保存	兼松 紘一郎
住居空間の原型	香山 壽夫	計画演習(3) (1泊2日)	益子 義弘 竹内 寿一 阿部 光伸 連 健夫
私の住居論(1) 映画に学ぶ住まい方	渡辺 武信		
計画演習(1) 小空間	渡辺 武信	地中海都市の生活空間	陣内 秀信
郊外の成立、別荘の成立	鈴木 博之	特殊解でなく一般解としてとらえる	吉田 桂二
空間体験(1) ものづくりの現場を訪ねる		竹笹資源からみた環境・住まい・身体	大泉 高明
自然エネルギーと建築	奥村 昭雄	個と共をゆるやかに結ぶ～参加のデザイン	延藤 安弘
計画演習(2) グループ・ワーク	丸山 欣也	美の条例	五十嵐敬喜
計画演習(2) シェルターとしての住まい(2泊3日)	遠藤 精一	アーバン・ランドスケープ	キャサリン・フィンドレイ
記憶装置としての都市	井尻 千男	住宅であり建築であるということ	林 昌二
住生活と水辺とのかかわり～リバーloop21東京構想	波多江健郎	建築家はジャーナリズムとどのように渡り合うか?	中村 敏男
作品づくりと社会貢献の両立を目指して	坂 茂	空間体験(2) 研修旅行（見学・討論など）	
個と社会	鈴木 正治	景観形成とマスターアーキテクト方式について	内井 昭蔵

鉄骨階段の 生産と現場施工



有明利昭

はじめに

その昔、高い位置にある神殿へと至る階段は、人と神とのアクセスする手段として尊い存在でした。現在、我々が日常接している階段は、そのような神秘的な意味あいを持つものではなく、単に建物の階層を移動する手段を担うものにすぎません。それとて、今や主役の座はエレベーターやエスカレーターに取って代わられています。しかし、建物の用途を問わず、私たちが生活を営むうえにおいて階段は必要不可欠な物であります。

日本の狭い国土に建物を建てる場合、できるだけ多くの居室や商業スペースを確保するために、設計者は最小限のスペースで階段室を建物に組み込もうとしますが、結果として、階段は建物本体の様々な部分のしわ寄せを受けることになり、その設計は大変むずかしい物となります。昔から便所と階段の設計が出来れば一人前と言われる所以でしょう。

鉄骨構造物の場合、躯体鉄骨は直接仕上げに表れる事は少なく、その寸法精度に多少の誤差が発生しても内外装を行う過程で吸収する事が出来ます。しかしながら階段は多くの場合は直接仕上げ面に表れ、その精度は高い物が要求されます。多少のずれの許容される物（鉄骨の柱梁）に高精度が要求される物（階段）を取り付けること自体に矛盾がありますが、多くの場合、階段がそれを吸収していかなければならないのです。

階段スペースに必要最小限を望む施主、設計者。現場工事の容易な階段を望むゼネコン。作り易い階段を望むメーカー。これらに葛藤が生じるのです。しかし、個々の利害に捕らわれるあまり、使用する者に不便や危険を及ぼす階段では意味がありません。

ここでは、必要ではあるがそれほど重要と意識されていない階段を再認識してもらうため、メーカーの立場から階段の生産、施工について述べることに致します。

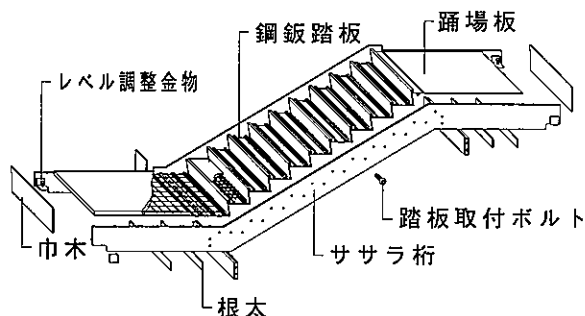


図-1 組立式鉄骨階段を構成する部材

生産の手法の進歩—CAD/CAM

階段は、図-1に示すようなササラ桁、踏板、踊場板、巾木等の主要部品で構成されています。これらの部品を作る方法として、以前は、図面をもとに原寸を描き、その原寸からフィルムに写し取り、それを鋼板にけがき、切断して作っていました。その後、原寸を描く人の不足と作業効率の問題から、原寸が工作図（部品図）に変わり、加工はNC（数値制御）工作機の出現により、精度においても効率においても飛躍的な向上を果たしました。しかしながら、もとより階段は受注生産で、建物、フロアごとに形状が異なるため多種多様であり、生産の自動化を計ろうとしても個々の加工工程ごとに寸断され、システム化は困難なものでありました。

1980年代に入り作図にCADが普及しはじめ、80年代中ごろからCADとNCが連携したCAD/CAMシステムが動き始め、90年代に入ると、他品種少量の自動生産システムの実現が可能となりました。（写真-1）

技術情報シート A

CAD情報からNCの数値情報だけを取り出し、通信により人間の手を介することなく情報の伝達が行われるので、間違いの無い精度の高い製品を得られ、さらに、今まで自動化がほとんどされていなかった部品加工も、効率よく24時間無人で稼働する工場も実現されました。



写真-1 プラズマ切断機による部材の自動切断

階段の組立ては、従来のササラ桁と踏板を溶接して作る溶接階段では、溶接工の不足、作業者の技量（資格）の有無、安全や健康管理等いろいろな面で時代に合わなくなって来ました。これらは、溶接による接合方法をボルトによる接合方法に替えることで、技術者の不足や作業者の技量に左右されない安定した製品が出来、溶接による歪みや美観を気にせず管理することが可能となりました。反面、ボルトによる組立て式では、ボルト穴の精度が要求されることとなります。しかし、CAD/CAMの出現により、その穴の精度に対しては全く問題なく対応が出来ます。溶接技量の安定を管理するよりもボルトの締め付けトルクを安定させる管理のほうが、簡単にかつ正確で完全な管理が出来るのは当然です。このように、今や階段の組立においても、塗装においても、数値制御された機械やロボットで作業することが出来るまでになっています。

工法と納まりの特徴

取付方法については、建物がS造やSRC造であれば、階段も通常は鉄骨階段を使用していますので、様々な改良が加えられて来ましたが、RC造の建物で特に内部階段を構築する場合は、躯体と同様に型枠を組み、支保工を立てコンクリートを打設し、養生期間終了後に支保工、型枠を撤去する複雑な作業を行っています。その場

合、コンクリートの打設が終了してもコンクリートの養生期間中は、階段部分に支保工が多く残存し、そこを歩行することは困難であります。ましてや作業通路として資材の運搬に利用することは不可能に近いものがありました。これらの問題を解決するため、現在ではRC造の建物の内部階段にあらかじめ工場生産された鉄骨階段を利用する工法も開発されています。（写真-2）

鉄骨階段を使用すれば、RC造では非常に時間と工数を必要としていた階段構築作業も、短時間で架設出来、架設直後にも作業通路として使用可能なため、安全性、簡便性において優れた物となっています。近年、RC階段を作る熟練の技術者が不足しており、今後増加する見込みもないため、このような工法はますます増えて行くものと思われれます。

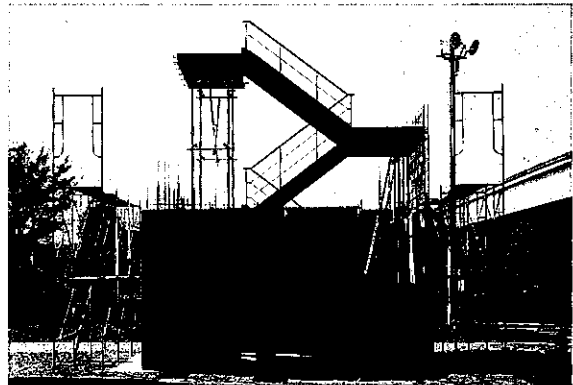


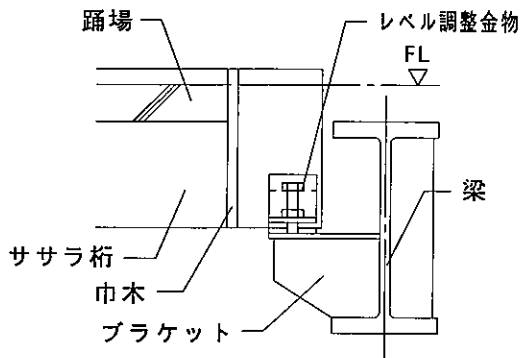
写真-2 RC建物用鉄骨階段

鉄骨階段を構築する場合、階段設置位置の躯体の鉄骨梁と階段が取り合うこととなりますが、その接合方法は図-2に示すようなガセット方式とアゴ掛け方式の2種類に大別されます。ガセット方式は梁の横に突出して取り付けられたガセットプレートと階段のササラ桁をボルトにて接合する方法であり、階段はボルトのせん断力で支持されています。次に、アゴ掛け方式は鉄骨梁の上に階段を載せ、ササラ桁に取り付けたピースにより梁とボルト接合、もしくは現場溶接する方法であり、階段は梁の上に載った形で支持されています。

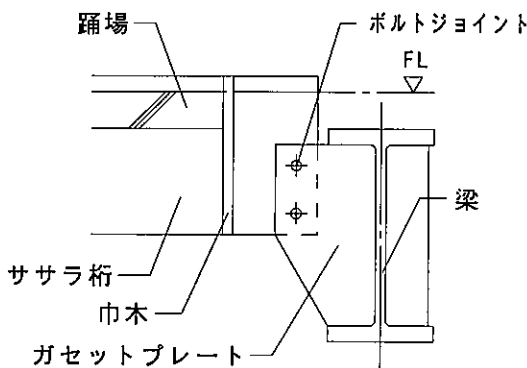
鉄骨階段は通常、段部とその前後の踊場部分が一体となったピースを1単位として、それを現場でクレーンにて所定位置にセットしますが、現場での取り付け時においてガセット方式、アゴ掛け方式の両者を比較すると、ガセット方式はボルトで階段を支持しているため、接合

ボルトをセットするまでは階段をクレーンにより吊り上げた状態を保たねばならず、重機の占有時間が長く工事全体に負担をかけます。さらに、階段を吊り上げたままボルトのセットを行うため危険でもあります。一方アゴ掛け方式は階段を梁の上に載せる支持方法のため、物理的に階段は落下しない構造となっており、クレーンによる設置作業もスムーズに短時間ででき、即時にボルトセットを行う必要もなく、設置後は直ちに仮設通路として利用出来ます。

図-2 階段と梁の取り合いの種類



アゴ掛け方式



ガセット方式

次に躯体鉄骨の誤差等により階段のレベル調整の必要が生じた場合は、ガセット方式では簡単に調整する手段がなく、調整を行うためには変更する位置に合わせてボルト穴を現場で明け直し、ボルト接合した後、ガセットとササラ桁を溶接固定する等の、かなり煩雑で危険な作業を強いられます。しかし、アゴ掛け方式の場合には、図3に示すようなササラ桁に設置したレベル調整金物（カーテンウォールのファスナー部分のレベル調整金物と同様の物）により、重機を用いずに簡単かつ安全に調整が可能となります。

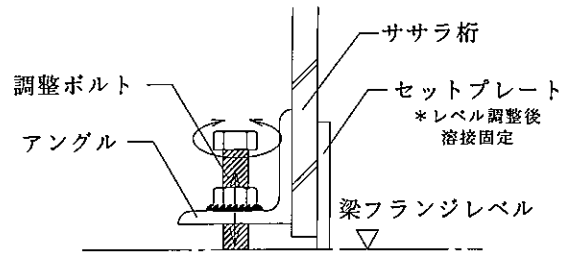


図-3 階段レベル調整金物

これまで述べた事は、基本的な階段の構築方法であり、階段を1本づつ吊り上げてセットする方法ですが、最近ではビルの高層化によりこの方法では作業効率も悪く、特に超高層ビルではタワークレーンの稼働時間に制約が多い事から、階段2本と手摺まで付けた物をセットしたり、地上で2~3階層分の階段と鉄骨を地組みし、それらを揚重して一気に階段部分を構築する方法も行われています。

製作図について

階段を設計する際、そのほとんどが踊場と柱や梁の取り合いに頭を悩ませます。柱が踊場のコーナー部に位置し、踊場のスペースに影響を与えるためです。(図-4) 柱があれば当然階段をよけなければ納まらず、階段のササラ桁の形も複雑な物になってしまいます。

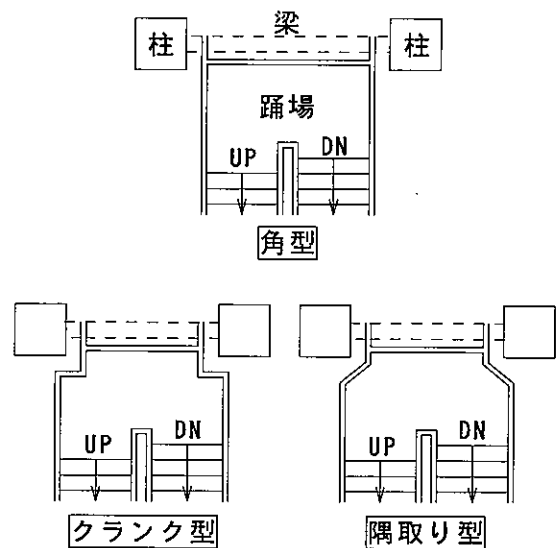


図-4 階段と柱の取り合い例

技術情報シート A

また、梁については、中間踊場側は階段専用の梁となるので比較的自由ですが、フロア踊場側は床や建物の構造体としての梁を階段受けと兼用しているため制約が出てきます。梁のレベルやジョイントがそれです。通常120mm~150mm程度フロアレベルから梁が下がっていますが、先に述べたアゴ掛け式を適用するならば、階段の用途、規模により差はありますが構造的に満足するには、図-5に示すように受け梁の下がり量を200mm程度は確保したいものです。また、ササラ桁がくる位置に梁のジョイントがある場合が非常に多く、梁とササラ桁や取り付けピース等の干渉を避けるためには取り合いが非常に複雑化してしまいます。

そこで、メーカーサイドでは、多種多様な柱梁との取り合いのディテール化を推進して、どのような複雑な取り合いでも対応出来るように努力を続けています。また、発注側も、今までは、とかく面倒のあまり、メーカーに依存していた取り合いの詳細を自分自身でも納得出来るべく、相互で協力しあいディテール化を積極的に推し進めています。数年後は、数千種におよぶ取り合い参考例がディテール化され、データベースが完成するものと思われる。

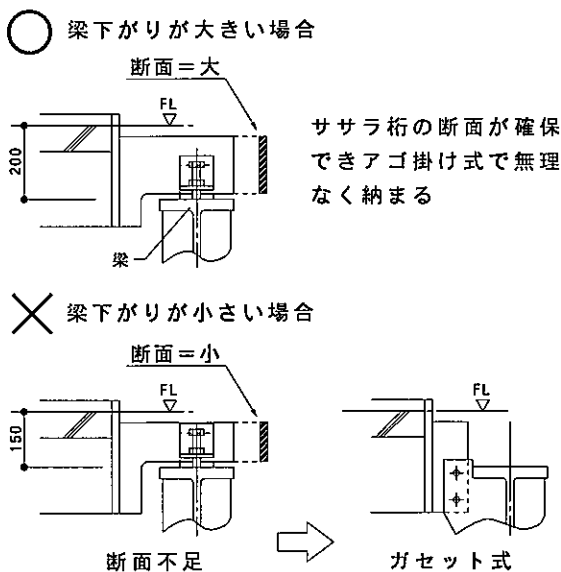


図-5 受梁レベルが階段に及ぼす影響

今後の方向性

鉄骨階段に係わる部品や装饰材料は、手摺をはじめとする、壁材、照明等の付帯部材、また、床、壁の表装部

材、ノンスリップ、ペンキ等の仕上げ材、これら数多くの材料により構成されています。このため階段室を作る場合に多種多様な業者、職人が必要となります。

また、鉄骨階段の建方は現在は階段1箇所あたり1日で3~4フロア分の階段取り付けが可能です。しかし、階段取り付けは躯体の鉄骨建方の進行に合わせて取り付けに行くため、当然躯体の鉄骨工事の進捗状況に左右されます。多くの作業員が連続的に作業の出来る躯体鉄骨工事と異なり、階段工事は非常に非効率的な作業となってしまいます。階段工事を階段専門の職人が行わなくても、一般鉄骨工事の作業員でも取り付けられるよう、取り合いその他を規格化し、簡便な物とすればコストダウンに繋がると考えられます。その意味でも余裕のある階段スペースをとって設計上の無理を無くし、取り付け易い、使い易い、安全な階段とする事が求められます。

おわりに

最近の建物には、利用者の目を引くようなデザイン化された屋外階段の需要も増加しています。また一方では、階段の9割以上が避難用として設置されており、両者の用途は自ずと違ってきます。避難階段でも今までは建物の設計者が企画・設計を行い、その図面をもとにメーカーが製作図を書いており、度々の変更等、対応に多くの時間を費やしコストダウンの障害となっておりました。今後は更に階段を規格化、標準化する事により、設計・生産効率の向上、現場の省力化を計りユーザーとメーカーが互いにメリットを見いだす事が必要であると考えます。

〈参考文献〉

横森精文、有明利昭、門井由典：“建築における鉄骨階段の生産、供給、設計システムの変遷”，第10回建築生産と管理技術シンポジウム1994，日本建築学会

建築構造用ステンレス鋼材を使ったシステムトラス



珠 玖 義 樹

はじめに

システムトラスの材料の種類はスチールから木材まで多くありますが、今回はステンレス鋼を使ったものについて紹介します。

ステンレス鋼は、その特色である意匠性と耐久性から、建築分野では早くから内外装材として使われてきました。近年、そのステンレス鋼を建築構造材として使うことが認められました。今回、ステンレス鋼を用いたステンレスシステムトラスの特長、施工実績について紹介します。

1. システムトラスとは

あらかじめ工場で製造された標準部品を、建築の施工現場にて組立てる建築方法をシステム建築と呼んでいます。システムトラスとは鋼球と鋼管部材をねじ接合することで立体トラス架構を作り、建築空間を形成するシステム建築です。立体トラス架構は、柱と柱の間隔が広くとれる大スパン建築が可能で、その代表的なものは大阪万博のお祭り広場の大屋根です。

システムトラスの特長は、鋼球、鋼管部材が工場にてコンピュータ制御によって製作される為、製作精度に優れ、また施工現場にてトラス組立て時に溶接を必要としない為、品質が安定し、意匠的にも優れている点です。トラス用鋼材としてステンレス鋼以外にも特殊鋼（SCM435、S45C等）を使用したシステムトラスを20年に渡って製造、施工してきました。

2. ステンレスシステムトラス

使用鋼材にステンレス鋼を用いることは、仕上げ材などで構造体を隠すことが少ないシステムトラスにとっては、意匠性において他の建築材料よりはるかに優れていると言えます。

1994年にステンレス鋼(SUS304)が建築構造材として認められ、ステンレスシステムトラスの可能性が広がりました。ステンレスシステムトラスは、ボルトにSUS630(高力ボルト)を、その他の部品にSUS304を用いたトラスで共同開発し、今までに、建設大臣の個別認定を取得した施工物件が3件あります。次にその3件を含め、4件の施工例を紹介します。

「給水塔モニュメント」

大阪港にある人工島「舞洲」に建設された給水塔の屋上モニュメントです。地上56メートルに位置し、モニュメントの高さは約8.5メートル、平面は一辺が約5.3メートルの正八角形をしています。使用されたステンレス鋼球は706個、ステンレス鋼管部材は2,809本です。ステンレスの表面仕上げは鏡面仕上げです。写真-1にその全景を示します。

「工場ゲート」

ステンレス鋼材製造工場のゲート上屋で、屋根材、0看板、柱等全てにステンレスを用いて建設されました。柱のスパンは、22メートル、高さは、地上約8メートル

技術情報シート A

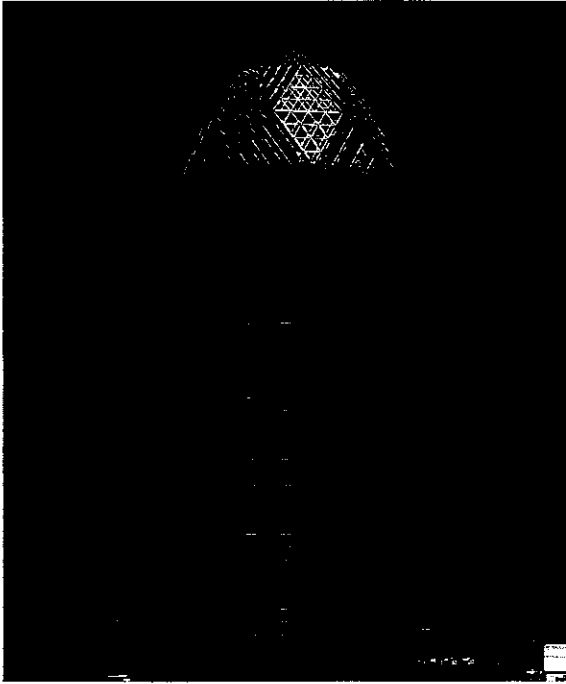


写真-1

「公園モニュメント」

このモニュメントは、太平洋戦争で焼失した名古屋の街を復興する事業の収束を記念して、名古屋市が募集したコンペの一等案で、1988年に名古屋の久屋大通り公園に建設されたものです。

表-1に使用した部材リストを、写真-3にその全景を示します。

鋼管部材	鋼球
φ 48.6×3.0	φ 110
φ 60.5×3.0	φ 130
φ 76.3×4.0	φ 150
φ 89.1×4.0	φ 180
φ 101.6×1.0	φ 200
φ 114.3×4.0	φ 220
φ 139.8×4.0	φ 260
φ 165.2×5.0	φ 300
φ 216.3×5.0	

です。このゲートの特長は、ステンレスの表面仕上げに、鏡面仕上げではなく光沢をおさえた特殊処理仕上げを採用することでまぶしさを抑え、車両のドライバーの安全性を考慮している点です。写真-2にその全景を示します。



写真-2

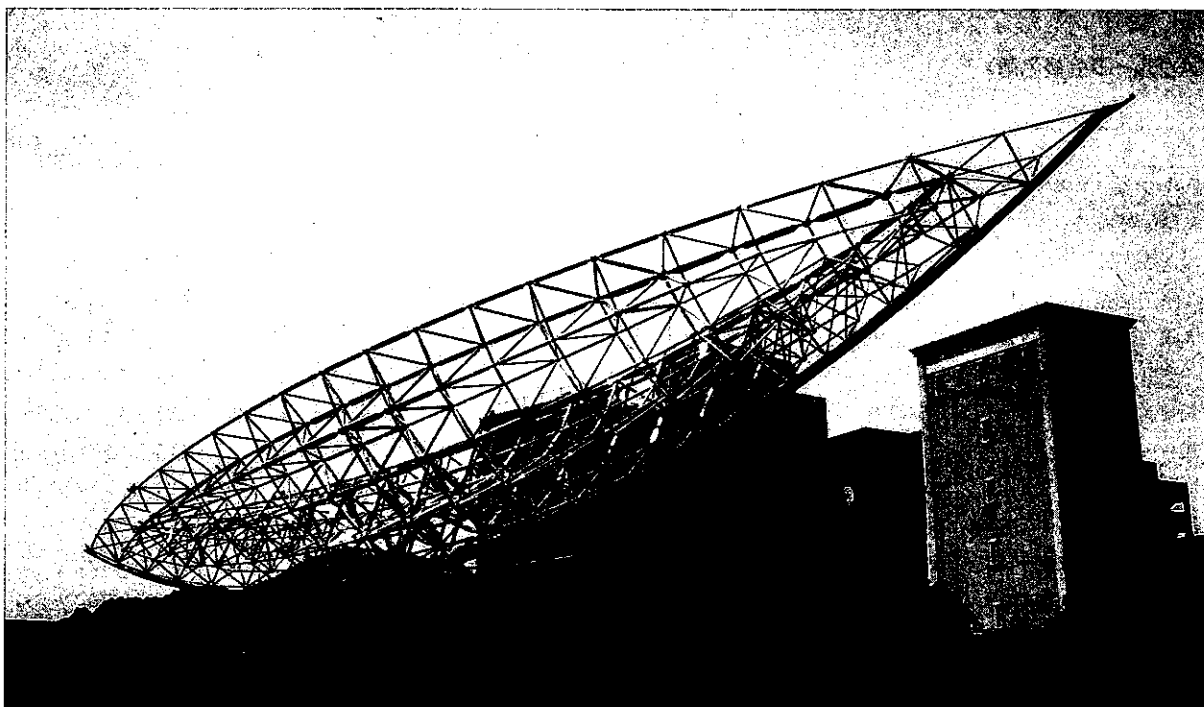


写真-3

「工場シンボルタワー」

このシンボルタワーは、工場の入口に案内塔を兼ねたモニュメントとして1995年に建設されました。写真-4にその全景を示します。



写真-4

広がり、さらにボルトにSUS630 (高力ボルト) を使用していることで、より高い、より広い構造物に使われるものと思われます。

一般にステンレス鋼は錆びないと思われていますが、実際には錆びにくい材料であり、使用される環境によって発生する錆びの状態も大きく異なってきます。田園地帯と工業地帯、海岸辺りでは、錆の進行速度も違います。施工したときには鏡面に輝いていた表面も、メンテナンスを施さなければ数年後にはその輝きを失います。

それを防ぐためには、施工後定期的にメンテナンスを行うことや、あらかじめステンレスの表面に錆を防ぐ表面処理を施すことが有効と思われます。

今後はいかにステンレスの美しさを維持するかが、我々の課題の一つと考えます。

〈太陽工業株式会社〉

3. ステンレストラスの今後

このように、ステンレスシステムトラスは、モニュメント、シンボルタワー、エントランスキャノピーの様なステンレスの特徴を生かした、意匠性、装飾性に富んだ建造物に使われてきました。今後もこの様な使用用途は

技術情報シート A

〈Aグループ会員名簿〉

社名	営業品目	担当者名	連絡先 (TEL)
A-1 仮設/土木・杭および地盤調査			
応用地質(株)	地質、地盤調査、環境調査、土木設計、計測機器開発・販売	中村 奉文	03-3946-3111
大洋基礎(株)	ACE工法、耐震場所打杭、地盤改良	松木 富蔵	03-3663-5561
太陽工業(株)	立体トラス (TMトラス)、スカイライトシステム (TSS)	伊藤 秀夫	03-3714-3471
大同コンクリート工業(株)	遠心力鉄筋コンクリートパイル	伊藤 吉孝	03-5600-3311
(株)東京ソイルリサーチ	建設コンサルタント、地盤調査、耐震診断	矢島 義麿	03-3463-4825
(株)東建ジオテック	地質調査、測量、土木設計	永木 明世	03-3833-0381
(株)トーヨーアサノ	コンクリート、コンクリートポール等の製造・販売	高嶋 研二	03-3356-3172
東北ポール(株)	コンクリートポール、鉄筋コンクリート製品等の製造・販売	小林 義男	03-3211-2819
日本コンクリート工業(株)	ポール、パイル、二次製品メーカー	白子 邦夫	03-5462-1081
日本ヒューム管(株)	窯業、ヒューム管、パイル、ウェル、ボックスカルーバート	社本 博	03-3437-2601
(株)日本品質保障機構	建設材料の試験、セキュリティコンサルタント	森 利明	03-3474-2525
マックスコンクリート(株)	コンクリートパイルの製造・販売、杭打工事施工	河上 憲一	03-5821-1160
丸五(株)	土木工事一式、場所打ちコンクリート杭施工一式	山松 清	03-3662-2991
丸五基礎工業(株)	土木工事一式、場所打ちコンクリート杭施工一式	石島 保三	03-3649-5131
三谷セキサン(株)	コンクリートパイル、ニーディング工法	小林 直樹	03-5821-1133
A-2 コンクリート、鉄筋			
小田急建材ベストン(株)	コンクリート、体防水混和材ベストンA、モルタル防水ベストンB	神田 正之	03-3377-6116
オリエンタル建設(株)	PC構造物の設計製造施工、一般建築工事請負	青山 定男	03-3261-1174
日本セメント(株)	セメント、建材製品、コンクリート二次製品、地盤改良材	堀 奉博	03-3201-1731
フドウ建研(株)	PC床版、PC人工土地、PC段床、PC梁の製造組立	白井 義惟	03-3837-6101
ボソリス物産(株)	コンクリート用科学混和剤、床剤、補修剤	猪瀬 修一	03-3582-8811
前田製管(株)	プレキャストコンクリート製品全般	土門 成実	03-3649-7021
山宗化学(株)	コンクリート用混和剤の製造・販売	滝本 嘉則	03-3552-1261
黒沢建設(株)	PC床版、PC人工土地、PC段床、PC梁の製造組立	福島 勝仁	03-3371-3360
A-3 鉄骨			
(株)大川トランススティール	建築鉄骨、橋梁、プラント鉄構物、インテリア建具、溶接計測器	鈴木 嘉明	03-3291-6016
岡部テック(株)	スタッドジベル、サップアンカー、PCファスナー等	江良 嘉之	03-3624-5118
川鉄建材(株)	建築商品、土木商品、鋼管形鋼商品、建設工事請負	渡部 忠治	03-5626-7007
(株)クボタ	構造材 (Gコラム)、屋根材、外壁材、空調機器	川村 紘一	03-3245-3554
新日本製鐵(株)	鉄鋼業、建築プロジェクトの企画・設計・施工・運営	力石 寛	03-3275-7738
龍上工業(株)	鉄骨、橋梁、その他鉄構物の設計・制作・施工	加納 英明	03-3552-6681
(株)東京鐵骨橋梁製作所	鉄骨、橋梁、鉄塔、水門の設計、製作、建設工事	佐々木 勝実	03-3451-1147
日本超音波試験(株)	鉄骨溶接部の被破壊検査、建築設備配管劣化調査	安藤 純二	045-911-5191
(株)横森製作所	鉄骨階段、手摺、装飾金物	有明 利昭	03-3460-9211

〈賛助会員各グループ構成一覧〉

Aグループ (A1-仮設・土木・杭、A2-コンクリート・鉄筋、A3-鉄骨)、	Bグループ (B1-防水、B2-左官・塗装・吹付)、
Cグループ (C1-ALC・PC・セメント板、C2-石、C3-タイル、C4-屋根・金属、C5-建具・ガラス・プラスチック)、	Dグループ (D1-エクステリア・内装工事、D2-家具、D3-インテリア・材料)、
Eグループ (E1-電気設備施工、E2-電気設備メーカー、E3-搬送設備)、	Fグループ (F1-空調衛生施工、F2-空調衛生メーカー、F3-エネルギー)、
Gグループ (G1-CAD、情報処理、G2-教育・出版)	

◎客室の最新・リニューアルレイアウト—最近事例!

魅力ある旅館の客室 求められるくつろぎの空間

A4判並製/200頁 ■特別価格2,000円(定価7,500円)

本書は、(社)国際観光施設協会が実施した「客室の利用客を対象としたアンケート」の結果をまとめ、今後の旅館経営に大変参考になるデータを提供している。

内容は3部構成で、第I章では客室の変遷と今後の動向を探り、第II章で、客室の建築・設備を計画するうえでの留意点から、家具備品類のリストまでを、それぞれの分野の専門家が詳細に解説。第III章は、今、注目されている22の客室の最新レイアウト、リニューアルレイアウトをカラー写真と図面で具体的に紹介。また、付録の客室の清掃と設備のメンテナンスはチェックリストとして活用できる。

◎ホテル・旅館・会館の宴会場—最近事例!

宴会場計画の新しい潮流

A4判並製/200頁 ■特別価格1,000円(定価5,000円)

●国際観光施設協会が実施した「宴会場設備の調査・研究」の成果を本書にまとめ、今後の宴会場計画の進め方に大変参考になるデータを提供している。

●宴会場のプランニングから、各種設備の技術的内容を専門家が詳細に解説、宴会場の基本設計と設備計画の進め方を示唆している。

●今、注目されている15の最新・話題の宴会場を、カラー写真と図面で具体的に紹介。

観光・商業施設のメンテナンスマニュアル

建物を永持ちさせる 手引き

改訂新版

A4判並製/470頁 ■特別価格2,000円(定価6,600円)

ホテル・旅館等の運営にあたり、重要な課題である建物・設備・備品の維持管理をテーマに取りあげた「建物を永持ちさせる手引き」(1987年発行)の内容をさらに充実させ、改訂新版とした。本書は観光施設にとどまらず商業施設をも対象に、その維持・管理についてマニュアルとして使われることを意図して編集され、専門家だけでなく一般の方でも容易に理解できるよう記載してある。

発行/社団法人国際観光施設協会 編集/社団法人日本能率協会

●申込方法/購入ご希望の方は、書籍名・冊数・氏名・勤務先・TEL・FAXを明記の上、下記あてFAXにてお申込み下さい。
社団法人日本建築家協会 FAX03-3408-8267

編集後記

住宅部会では半年毎に一般市民向けの講演会を開いていて、2月には富田玲子氏の講演があった。嵌殺し窓とクーラーが嫌いという氏の、風や光、緑、水といった切り口の話は面白かった。これは別の人の話だが、1人当たりの穀物の消費量ではアメリカはインドの8倍だそうだ。これは1人分の食肉を生産するために6人分の穀物を消費するためだという。また日本の米はそれにより得られるエネルギーよりも、生産するために消費するエネルギーの方が大きいそうである。最近エコハウスやら健康住宅やらと騒がしいが、変えなくてはならないのは、私たちの暮らし方ではないかと考えるこの頃です。(T.T.)

今月号からBulletinの誌面が一新したため、今時点で不具合無く発行できるかどうか、編集子として、とても不安です。

不安と言えば、新支部長の提言、JIAの直面する諸問題について。今までは建築家それぞれの所属する組織や業態、地域の状況により、必ずしも共通の問題という認識が無かった様に思われます。しかしながら、今日の経済状況、建築家の業務に対する社会の認知度、ISO9000'sや品質保証問題における我が国のプロフェッショナルリズムへの信頼関係の変化を見るにつけ、それらはまさに、会員全体の問題であり、JIAとして相当な議論を重ねたスタンスを持たないと対応していけません。

「建築家」という同業者ゆえ言わずとも分かる、俺は俺、個人の問題、という姿勢を捨てて、是非Bulletinに熱き議論の場を設けたいと思います。(Y.M.)

編集/社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部広報委員会

委員長・中山庚一郎
副委員長・真鍋喜嗣
委員・大隈 哲、小倉 浩、川岸梅和、郡山 毅
野原良治、林田 研、藤本幸充、米澤正己

委員長/真鍋喜嗣
編集委員/荒川幸子、大隈 哲、郡山 毅、
高木恒英、渡辺武信

発行人/菊地良一

発行所/社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18

JIA館

TEL 03-3408-8291(代) FAX 03-3408-8294

定価300円(購読料は会費に含まれています。)

PROFIT[®] 建築文化を機能とデザインで追う プロ・フィットシリーズ。

PROFIT[®] RAIN

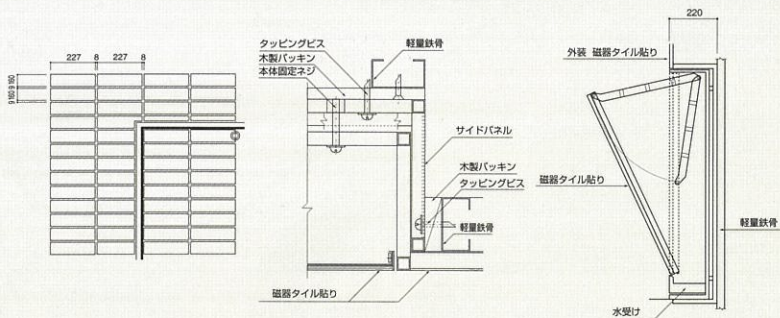
唐津シーサイドホテル
佐賀県唐津市虹ノ松原 Tel 0955-75-3300

設計：(株)山田水城建築設計事務所
施工：清水建設(株)



唐津シーサイドホテル 施工図面

私たちは、現代版“鍛冶屋”です。
このプロ・フィット シリーズは、
建築家やデザイナーの方々の様々
なご意見やアイデア、アドバイス
と、現代版“鍛冶屋”として時代
のニーズや知識を基に製品化を図
るという弊社の企業姿勢が合致し
誕生しました。



この実績例は、プロ・フィット レイン特注仕様 (PFR-B1310H-S) の
前面パネルに、建物と同様の外装タイルを貼り、さらに違和感のない
よう外装タイルとのピッチを揃え、建物との調和を図ったものです。

●プロ・フィットシリーズ：レイン インテリア 消火器ケース ムーブボラード ムーブフェンス ゲート アートバー



株式会社ヒガノ

お問い合わせはプロフィット事業部
TEL0489-31-3321(代) FAX0489-31-7332 本社・工場 〒340-0002 埼玉県草加市青柳3-24-7
<http://www.venture-web.or.jp/HIGANO/>